

2025

アーツカウンシルしずおか アニュアルレポート 2025

Arts Council Shizuoka Annual report

アーツカウンシルしずおか アニュアルレポート





木下直之 (静岡県立美術館館長、東京大学名誉教授)

Kinoshita Naoyuki
 1954年浜松市生まれ。東京藝術大学大学院中退、兵庫県立近代美術館・東京大学総合研究博物館、東京大学文化資源学研究室教授をへて、現在、静岡県立美術館長、東京大学名誉教授。近代の美術や写真、見世物、祭礼、ニセモノ、記念碑、建築、彫刻、博物館、動物園などを取り上げ、日本の「注目されてこなかった」文化を研究してきた。著書に『美術という見世物』(サントリー学芸賞)、『写真画論』(重森弘淹写真評論賞)、『わたしの城下町』(芸術選奨文部科学大臣賞)、『股間若衆』『動物園巡礼』など多数。2015年春の紫綬褒章受賞。

Art's and me
 01
 わたしと
 アーツカウ
 ンシル
 しずおか

県立美術館がここに来た40年前は、文化の象徴として、目に見える立派な建物が県民に必要なとされていた時代でした。でも今、目には見えにくいけれど、人々の創造性を支える仕組みづくりの拠点として「アーツカウシル」という形が静岡県に現れていることには、とても大きな意味があると思っています。美術館は言ってみれば、形ある作品を残すこと、出来上がったものと向き合うことに特化した場所ですが、祭りのようにその時生まれては消えていく営みや、人々の暮らしの中で今いま起きていることに目を向け、そこに価値を見出し積極的に支援していくことは、アーツカウシルしずおかだからこそできることで、この多様化した時代に、最も求められていることなんじゃないでしょうか。

実は数年前から、美術館の裏山を展示場所として使い始めています。風化を許容することで作品の見方が揺さぶられ、美術館は今までは違った体験の場としてひらかれていく。時代の変化に応じて、美術館も変わる必要があります。アーツカウシルしずおかもまた、新しい視点で人々の発想や地域の可能性をひらく存在。これから先、どんなふうにひらいていくのか？お互いに試行錯誤ですね。

2025年度「文化芸術による地域振興プログラム」 チラシ等制作物



千葉寿子 (特種東海製紙株式会社 総務部長兼 Pam館長)



Chiba Hisako

1968年沼津生まれ。学生時代は京都で過ごし、文化財に関わる仕事を目指して学芸員資格を取得し、Uターン就職で、資料館建設予定のあった地元企業、特種製紙(当時)に入社。企業資料館Pamの立ち上げ(2002年)から、現在は館長として、紙の文化の紹介や紙わぎ大賞の運営に取り組んでいる。現在は総務部長も務めるため、東京と静岡を行き来している。

今回、当社の紙を提供させていただいた、大きな空間を埋め尽くすほどの巨大な中島崇さんの作品(次ページ参照)はとても素敵でした。また制作においては、大きなロールの紙を集まったみなさんと皺をつけ、形作ったと聞きしました。一つのゴールを目指す共同作業からは絆が生まれると思いますし、私も参加して良かったです。合併前の特種製紙(株)は長泉町で創業し、工場は2026年に100年の節目を迎えます。地域の皆さんへの感謝をテーマに掲げて、より地域とのつながりを意識している中で、このような作品制作に関わることができたことは印象深い出来事だと感じています。

当社は近年、製紙に加えて、リサイクル・環境事業への展開を進めています。この資料館Pamでは製紙技術や多彩な紙の使用例を展示していますが、今後は「紙は最も身近でリサイクルにも適した素材」というメッセージと併せ、リサイクルそのものに目を向けていただけるようなコンテンツを増やそうと考えています。「廃棄されるモノの中にはまだまだ宝が隠されている」、「知恵を集めたらサステナブルな世界に近づける」という期待と「限りある資源を循環させて繰り返し価値を創造していくために何が出来るか」というチャレンジ精神が交差するハブにしていきたいと考えています。その意味でも、アーツカウンシルしずおかによる文化の多分野連携や、人のつながりを生む取り組みには期待を寄せています。

紙わぎ大賞

今年(2025年度)で33回目を数える「紙わぎ大賞」をご存知でしょうか?ここでは、紙という身近な素材を通じて「みんなの表現」が引き出される取り組みとして「紙わぎ大賞」を紹介します。

紙わぎ大賞の起こりと継承

「紙わぎ大賞」は特種東海製紙(株)が主催する紙を使った作品のコンペティションです。今年で33回目の開催を迎えますが、元々は島田市でまちおこしのために1991年に始まったものでした。市民の有志でつくる実行委員会が主催し20回まで続いたところで、当初から協力してきた東海パルプ(株)が特種製紙(株)と合併してできた特種東海製紙(株)が引き継ぎました。

21回目からは、アーティストで、東京藝術大学学長の日比野克彦さんを審査委員長に迎えています。また、島田市での開催時に審査員を務めていたグラフィックデザイナーの福田繁雄さんの娘であるアーティストの福田美蘭さんが、日比野さんとともに長年審査員を務めています。その他にも、今年は島田市政施行20周年を記念して島田市長賞が設けられる等、島田市で始まったこの事業が大事に継承されている様子が窺えます。



特種東海製紙Pam(paper and material)

シンプルな応募条件が生み出す醍醐味

今では毎年400点以上の応募があるとのことですが、「みんなが表現者になる」を掲げるアーツカウンシルしずおかの視点から見ると、「紙わぎ大賞」の最大の特徴は、シンプルな応募条件によって引き出される創造力にあると言えます。

- ・紙が使用された作品であること
- ・形態問わない
- ・1辺150cm以内(3辺計300cm)、重量30kg以内
- ・応募点数の制限なし
- ・日本在住の16歳以上(高校生以上)
- ・グループでの応募可

第33回「紙わぎ大賞」募集要項より

この条件のもと、クラフト作家やイラストレーター、主婦、学生など幅広い方々が応募し、プロ、アマチュアの隔てなく同じ土俵で審査を受けます。「紙」は誰にとっても身近な素材であり、その特性を活かした条件設計が、多様な作品を生み出しています。作品は立体・平面を問わず、技巧を凝らしたものから、美しさや迫力を追求したもの、発想のおもしろさで紙の特性に気付かせるものまで、実に多彩です。この多様こそが人間の創造性の表れであり、応募を専門家に限らない醍醐味と言えるでしょう。



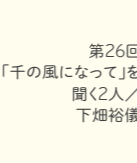
第33回紙わぎ大賞 遠州立版古/西村香音



第21回 黙する言語(時の形象)/井上隆夫



第29回 犬/三笠蓬菜



第26回 「千の風になって」を聞く2人/下畑裕儀



第32回 夕方の風/SaihouShibata



第32回 夕方の風/SaihouShibata

editorial note

社員にとっての「紙わぎ大賞」

「紙わぎ大賞」は、主催者である特種東海製紙(株)そして、立ち上げられた島田市有志のみなさんが、「紙」の可能性と、人の創造性に期待を掛けているからこそ実現した企画であることを感じさせます。また、会社で働く方々にとっては、自社の扱う製品だけでなく、「紙」全般にまなざしを向け、紙の可能性はもとより、山から運び出される木々や、山を育む環境を思い、使い終わった紙の行く末を考える、そのような機会になっているのではないかと推察します。今後もこの事業を通じて、「紙」と「創造力」の可能性が示し続けられることを応援していきたいと思えます。(鈴木一郎太)



静岡県が進める「東部・伊豆地域文化ネットワーク形成準備」の委託を受け、コーディネート役を務めたアーツカウンシルしずおからアーティストの中島崇氏に依頼し、全長200mの紙を使用したインスタレーション作品『pulp it!』を旧ヴァンジ彫刻庭園美術館で制作、設置した。(p45参照)

1 わたしとアーツカウンシルしずおか
 ー木下 直之
 ー千葉 寿子
 ー池田 修

5 もくじ

6 SUMMARY／2025年度(令和7年度)アーツカウンシルしずおか事業概要

8 **文化芸術による地域振興プログラム**

10 ー静岡うまれのアートプロジェクト、育ててきたのはどんな人たち?
 12 ー活動写真
 14 ー地域クリエイティブ支援
 23 ーcolumn 伴走者の目線から ～2025年度クリエイティブ支援～
 24 ー地域はじまり支援
 29 ーcolumn 伴走者の目線から ～2025年度はじまり支援～

30 **マイクロ・アート・ワーケーション(MAW)**

33 ーcolumn「MAWってなんだ?」 神里雄大×竹本旭曜、高梨麻梨香

34 **超老芸術**

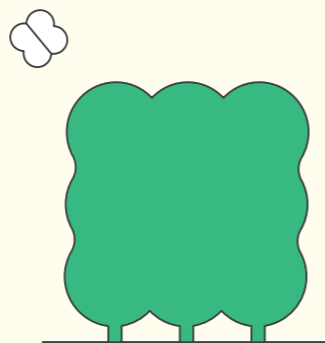
38 **アートによる空き家活用パイロット事業 fresh air**

40 **その他の取り組み**

ークリエイティブ人材派遣制度
 ー連続講座『さか^{はざま}の間』
 ーアートプロジェクト視察研修
 ー相談窓口

44 **レポート**

46 アニュアルレポート2025に添えて 加藤種男
 「アートプロジェクトが地域社会を元気にする」
 48 SUPPLEMENT／補足
 50 PROMOTION／広報



本書内には、「アーツカウンシルしずおか」を「ArtS」と略称で記載しているところがあります。

わたしと
アーツカウンシル
しずおか

池田修
(長泉町長)



Ikeda Osamu

1957年生まれ、長泉町立南小学校、長泉中学校、静岡県立韮山高等学校、工学院大学電気工学科卒業。長泉町企画財政課長、長泉町教育部長、総務部長、長泉町副町長を経て、2017年10月長泉町長に就任。特技は空手。座右の銘は「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」。

街を歩く時、ガイドの方が一緒だと景色がガラッと変わったりします。アーツカウンシルしずおか(以下、ArtS)は、そのガイド役のように、今ある素材を活かして、町をブラッシュアップしてくれそうです。クレマチスの丘での事業では、会場や町の魅力をうまく活かしながら、文化が生活に根差した町というイメージをつくって来ました。また職員にとっても、その経験が別の事業に活かせるアイデアを得る機会にもなっていて、そんな次の展開が引き出される機会をつくるというコーディネートの形を目的に当たりにしました。

また長泉町と、さまざまな表現を生活の場面に取り入れていくというArtSの考えには親和性があると感じています。長泉町には話を投げかけると膨らませてくれる職員がいて、町の生活をよくすることを大事にしながら動いてくれます。町の規模感も「ちょうどいい」ので、やったことは町全体に響くし、町民が反応してくれます。そして、それを私も職員も感じて、またがんばることが出来ます。この循環にはArtSの言う「(広い意味での)表現」が関わっています。「ちょうどいいがいちばんいい」という町のブランドシンボルが6220人の応募から決まったように、私自身も、町のみならず職員も「楽しもう」「いい町にしよう」という気持ちの表現を引き出すコーディネーターでありたいと思っています。

2025年度の回顧と展望

主幹事業である助成事業「文化芸術による地域振興プログラム」では28件のプロジェクトを支援した。今年度の特徴としては、これまで以上に地域資源の活用、関係人口促進、多文化共生、福祉など文化以外の分野に目的意識を持つ団体の参入が目立った。また参入だけでなく、文化以外の分野における成果を生む事例も出てきており、仲介役を担う実施団体の力が高まっている現れだと捉えられる。例えば、教育と結びつけた事業を実施した一般社団法人トリナスの取り組みでは、助成事業で試行したプログラムが学校の授業で継続されるという成果があり、発想の転換を取り入れたアートプロジェクトの効果が教育分野でも認められた好例だと言える。

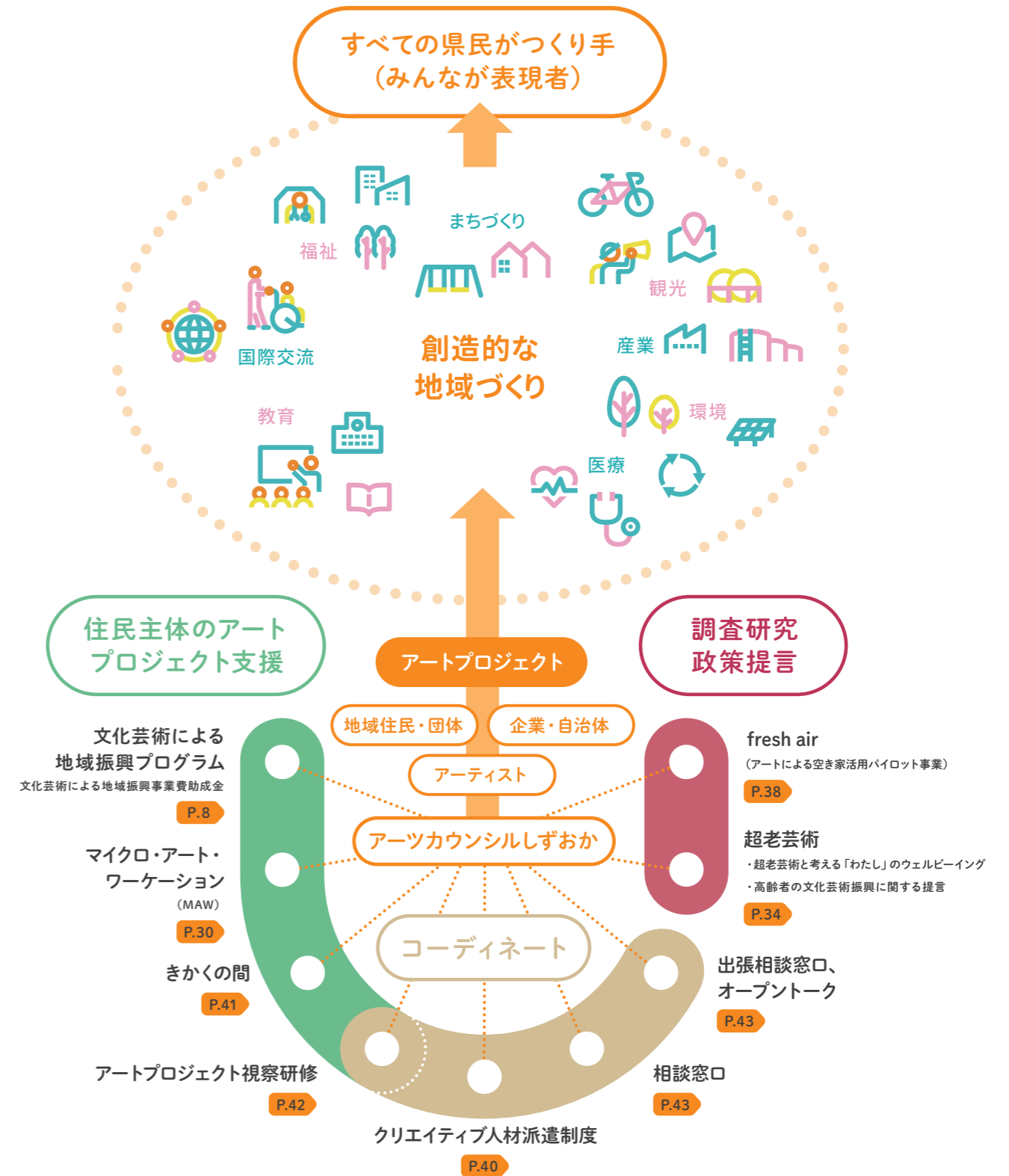
「超老芸術」は、高齢者の表現活動に目を向けた取材をもとに発信を継続している。今年度は、それに加えて、これまでの取材や、昨年度の高齢者の表現活動に関する調査、モデル事業等の結果に基づいて「高齢者の文化芸術振興に関する提言」をまとめた。今後は高齢者の表現活動とウェルビーイングを結びつけた展開を構想している。

「アートによる空き家活用パイロット事業 fresh air」は、これまでの試行やワーキンググループでの議論を踏まえ、成果につなげるためのより実践的な取り組みの実施(マッチングツアー)をするとともに、空き家活用にアートを取り入れるためのポイントをまとめたガイドブックを発行した。

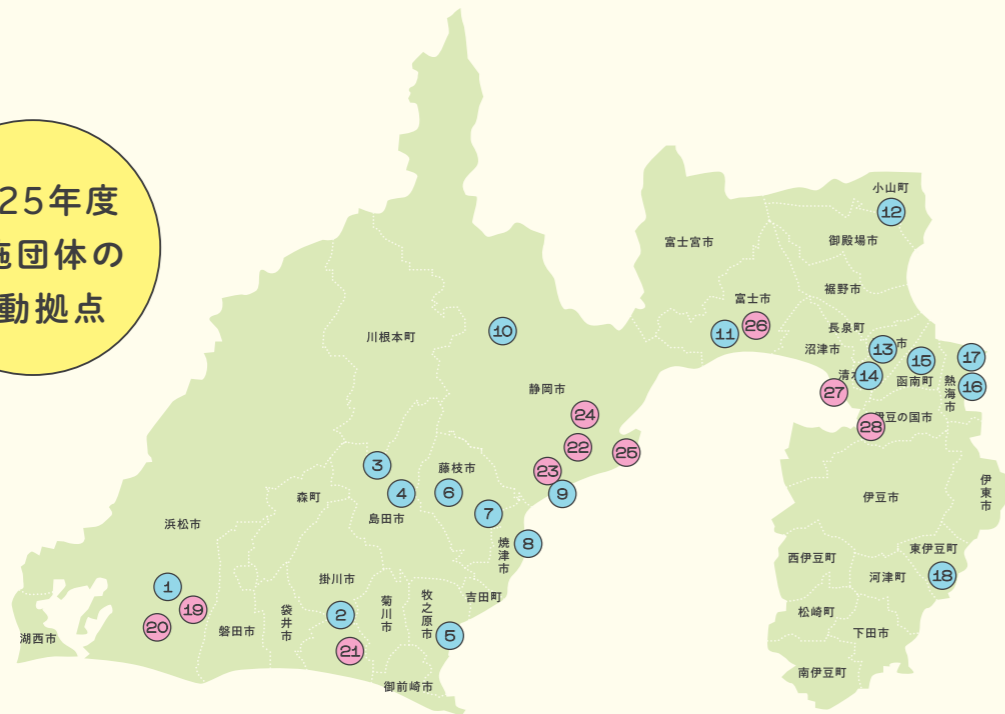
マイクロ・アート・ワーケーションは、回を重ねるごとに地域とアートの出会いを生み出しており、ホストによる活動や交流の継続や助成事業への応募といった成果も見られる。また、こうした地域とアーティストの交流によって醸成されつつあるアートへの期待感を目に見える形で把握できるように、静岡県からの委託を受けコーディネートした東部・伊豆地域文化ネットワークの企画を通じて示した。今後はそこにビジネス分野も交え、文化とビジネスの連携を進めたいと考えるが、改めてニーズの把握の必要性を感じている。

相談窓口への相談内容には変化が見られた。これまでは漠とした活動展開や悩み相談が多かったが、近年は企画をブラッシュアップさせる等の具体的な相談や、空き家、CSRなど他分野に関連する相談が増加している。相談窓口は、先に触れた事業との関連性も高く、各事業によって提示したビジョンに対する反応の受け皿として作用しており、県民の主体的な活動展開をサポートする重要な役割を担っている。

2025年度(令和7年度) アーツカウンシルしずおか事業概要



2025年度
実施団体の
活動拠点



地域クリエイティブ支援 18件

他地域や当該分野のモデルとなる先駆的なアートプロジェクト
(助成金額上限500万円)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① NPO法人クリエイティブサポートレッツ | ⑩ たまっぷ |
| ② 掛川百鬼夜行実行委員会 | ⑪ 井戸端会議室 |
| ③ NPO法人クロスメディアしまだ | ⑫ 小山町商工会 |
| ④ アートひかり | ⑬ しゃぎりフェスティバル実行委員会 |
| ⑤ 海と山の文化市実行委員会 | ⑭ 三島アートプロジェクト実行委員会 |
| ⑥ 竹部(バンブ) | ⑮ 一般社団法人スケラボ |
| ⑦ 藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会 | ⑯ 一般社団法人熱海怪獣映画祭 |
| ⑧ 一般社団法人トリナス | ⑰ 熱海未来音楽祭 |
| ⑨ 用宗アートプロジェクト | ⑱ イナトリアートセンター運営委員会 |

地域はじまり支援 10件

アートプロジェクトの実施に向けた試行的な取り組み
(助成金額上限30万円)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ⑲ ハマルおんがくプロジェクト | ⑳ テーブルシアター |
| ⑳ つくるぞうのへや | ㉑ 三保海浜マラソン実行委員会 |
| ㉑ 合同会社たゆたう | ㉒ わいワイクラブ |
| ㉒ HAHAHANO.LABO | ㉓ Artspace 入サ岩崎商店 |
| ㉓ 一般財団法人静岡市国際交流協会 | ㉔ アウラの森芸術舎 |

キックオフ
ミーティング

日時:2025年6月19日(木)
会場:グランシップ6F
交流ホール



成果報告会

日時:2026年2月8日(日)
会場:プラサヴェルデ
(コンベンションぬまづ)



(撮影:近藤ゆきえ)

Arts for Regional
Development subsidy

2025年度
文化芸術による
地域振興プログラム

アーツカウンシルしずおかでは、地域資源の活用や社会課題にアプローチする先駆的なアートプロジェクトを公募により選定し、単年度の支援を行っている。2025年度は、まちづくり、観光、福祉、教育、産業、文化芸術など多様な分野において活動する団体による28件のプロジェクトを採択し、支援を実施した。

本事業では、各プロジェクトに対し経費の一部を助成するとともに、アートマネジメント分野の専門人材(プログラム・ディレクターおよびコーディネーター)を配置し、個別のニーズに応じた助言や伴走支援を提供した。



文化芸術による地域振興プログラム

静岡うまれのアートプロジェクト、育ててきたのはどんな人たち？

2025年度



(撮影：近藤ゆきえ)



熱海発!!
次世代クリエイター
資源化プロジェクト
(一般社団法人熱海怪獣映画祭)



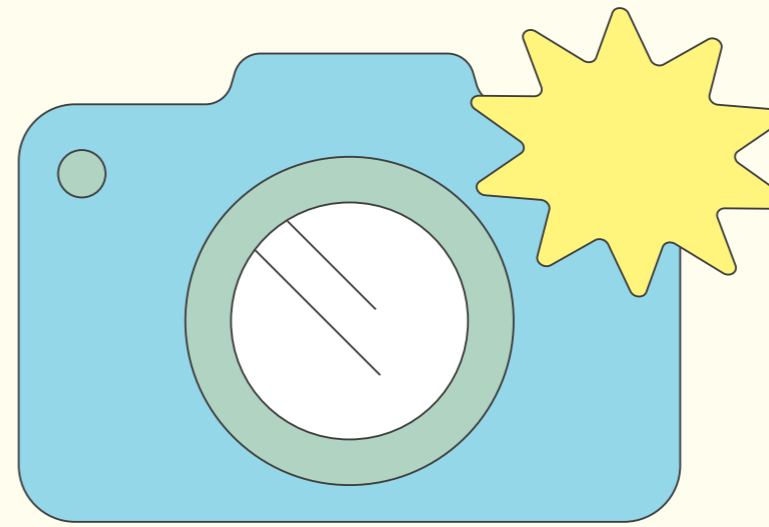
東海道中踊栗毛
(一般社団法人スケラボ)



三島満願芸術祭
(三島アートプロジェクト
実行委員会)



地域コミュニティ活性化に向けた
伝統芸能活用プロジェクト
(しゃぎりフェスティバル
実行委員会)



2025年度
文化芸術による
地域振興プログラム

活動写真



デモクラティックスクール
び〜だつとつくる人々
(つくるぞうのへや)



らららリズムくらぶ
(ハマルおんがくプロジェクト)



第二期
イナトリアートセンター計画
(イナトリアートセンター運営委員会)



第7回熱海未来音楽祭
(熱海未来音楽祭)



伊久美劇場
(アートひかり)



大井川芸術創生譚-UNMANNED
無人駅の芸術祭/大井川の先へ
(NPO法人クロスメディアしまだ)



掛川百鬼夜行 第四夜
(掛川百鬼夜行実行委員会)



アートによる福祉施設の
社会資源化を進めるための
リサーチ事業
(NPO法人クリエイティブサポートレッツ)



つながるはじまるプロジェクト
「KIKKAKE」
(テーブルシアター)



2025夏休みこどもシアター
(一般財団法人
静岡市国際交流協会)



『クビ』か『ウチクビ』か
(HAHAHANO.LABO)



地域医療つながりプロジェクト
(合同会社たゆたう)



アート活動を通じたこども・若者の
社会表現と発信プロジェクト
(一般社団法人トリナス)



藤枝ノ演劇祭5
(藤枝宿世代をつなぐ
商店街づくり実行委員会)



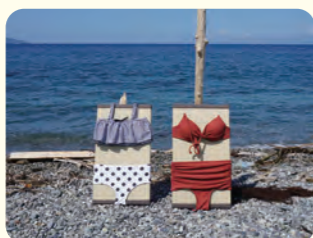
竹林劇場プロジェクト
「やつやまわらう」
(竹部)



いいあんばいプロジェクト
(海と山の文化市実行委員会)



アフリカルチャー・
クリエイティブ・エイジング&
インクルーシブ・プロジェクト
(アウラの森芸術舎)



沼津影絵畳プロジェクト
(Artspace入サ岩崎商店)



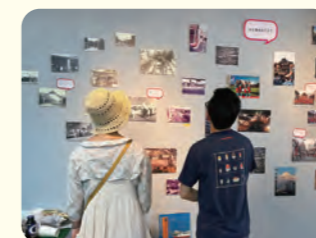
MIMASプロジェクト
アート×音楽×α
(わいワイクラブ)



第4回三保海浜マラソン
(三保海浜マラソン実行委員会)



推し活 OYAMA
Hometown FES
(小山町商工会)



井戸端会議室
(井戸端会議室)



山村の文化を次の世代へ
玉川新聞プロジェクト
(たまっぶ)



用宗アートプロジェクト
(用宗アートプロジェクト)

6

竹林劇場プロジェクト「やつやまわらう」

団体名：竹部（バンブ）

地域：藤枝市



アートを介して放置竹林を整備し、竹林の可能性を提示する「竹林劇場プロジェクト」4年目の取り組みを、静岡市・谷津山で開催。ダンスチーム素我螺部(すからべ)による複数回のワークショップを経て、地域の人たちが竹や地域の自然に親しみ、11月のイベントではその成果を発表。観客も含め、山も人も笑い合うような時間を過ごした。

里山劇場作り公開ワークショップ

実施日程：2025年4月～10月
会場：谷津山(龍雲寺奥 寿桂尼墓所前広場)、龍雲寺本堂、ひかり市民センター

竹林劇場プロジェクト『やつやまわらう』(ダンス公演)

実施日程：2025年11/2
会場：谷津山(龍雲寺奥 寿桂尼墓所前広場)

関係者数(延べ) 90人

素我螺部(ダンスグループ)、原大介(ギタリスト)、ひかり市民センター、沓谷歴史と自然の会、龍雲寺、谷津山友の会、谷津山ハイキング実行委員会、県内竹林整備団体、ワークショップやダンス公演に参加の子どもたち等

竹林劇場に響く音楽が最高に気持ちいいんです！



松澤 圭子 さん

4

伊久美劇場

団体名：アートひかり

地域：島田市



伊久美地区のランドマークを活用し、地域住民を巻き込みながら、伊久美の魅力に多角的に光を当てる演劇祭を展開。地域の文化や伝承を題材とした演劇作品づくりをはじめ、地域住民が講師となる体験型講座やマルシェなどを行うことで、住民同士の交流を促し、自分たちで地域を盛り上げようという意識の醸成にもつながった。

『伊久美劇場』

実施日程：2025年11/1～30
会場：川口八幡神社、旧伊久美小学校、伊久身農村環境改善センターやまびこ、193VALLEY BREWING、西田邸

関係者数(延べ) 120人

仲田恭子(舞台演出家)、杉山雅紀(俳優)、どんどろ流百鬼ゆめひな、たのしいおはなし会、劇団25番宿ほか出演者、テアトルカキリマぶちまりまり、しまだきものさんぼの店、キムジーほかマルシェ出店者、島市内小学生、伊久美地区住民等

多様な関わり方の輪を広げていきたい。



仲田 恭子 さん

7

藤枝ノ演劇祭5

団体名：藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会

地域：藤枝市



旧東海道藤枝宿を舞台にした地域演劇祭。5年目の今回は、日韓国交正常化60周年記念にあわせ、韓国から招へいた劇団をはじめ、劇団による作品上演、市民参加企画、まち歩き等を盛り込んだ。まちと演劇との融合によって、地域住民も来場者も、日常の風景の中にカッコよさを見出し、まちに新たな価値が生まれることを目指している。

『藤枝ノ演劇祭5』

実施日程：2026年2/28, 3/1
会場：ひつじノ劇場、ひとことカフェ、大慶寺、栄会館、藤枝市生涯学習センターほか

関係者数(延べ) 117人

劇団ユニークポイント、Babacircus Theatre Company(劇団/海外招聘)、アートひかり(劇団)、世 aml(劇団)、清水宏(コメディアン)、むらまつけーじ(絵本作家)、地元高校生、藤枝市地域おこし協力隊、富士山静岡空港利用促進協議会等

動き出すコミュニティが、文化になる。



山田 裕幸 さん

5

いいあんばいプロジェクト

団体名：海と山の文化市実行委員会

地域：牧之原市



障がいのある人と住民等が、無理なく心地よく“いいあんばい”に混ざり合い、個性を理解し合える場づくりを目指すプロジェクト。集大成となった10月の文化市では、障がいのある人と住民の協働による大漁旗の裂き織り作品を披露したほか、前月に発生した台風15号による被害からの地域の復興を願い、急遽特別なプログラムにも取り組んだ。

『海と山の文化市』

実施日程：2025年10/25
会場：凸凹食堂・凸凹広場

寄り合い場づくりとワークショップ

実施日程：2025年5/17, 6/12, 7/19, 9/20, 11/15

関係者数(延べ)39人

山中カメラ(盆踊り作家)、凸凹隊、brisa.flor.studioの子どもたち、合同会社 grooving、長嶋万記(ポーターレーサー)、馬淵香那(ダンサー)、千尋・鈴木井咲、はいばら太鼓、太鼓奏者ERI、宇宙キッチンナーティー、ダックリバー、YO-HEY、LOW(ステージ装飾)等

2年かけて育んだつながりを、これからもっと、いいあんばいに。



尾崎 千里 さん

10

山村の文化を次の世代へ 玉川新聞プロジェクト

団体名：たまっぶ

地域：静岡市



静岡の山村・玉川の自然に寄り添った豊かで美しい暮らしを次世代につなぐことを目指すプロジェクト。惜しまれつつ休刊していた地域紙「玉川新聞」を復刊するとともに、地域愛を育む取り組みとして、身近な野草の魅力を紹介するワークショップ「野草プロジェクト」や、自然の中で遊びながら学ぶ寺子屋などを実施した。

玉川新聞の復刊

発行時期：季刊(4月、7月、10月、1月)

『野草プロジェクト』

実施日程：2025年4月、6月、9月、12月
会場：野澤家周辺(玉川、桂山集落)、玉川交流館 キッチン ほか

『たまかわ寺子屋プロジェクト』

実施日程：2025年4月、5月、6月、9月、11月、12月、2026年1月
会場：曹源寺(玉川・長妻田集落)、桂山の広場 ほか

関係者数(延べ) 284人

日詰明男(建築家、数学者、発明家)、海野千恵子(野草師)、玉川小中学校PTA、玉川地区住民 等



野澤 さやか さん

祝玉川新聞復刊!
楽しく豊かな山暮らし、してみませんか

8

アート活動を通じたこども・若者の社会表現と発信プロジェクト

団体名：一般社団法人トリナス

地域：焼津市



こども・若者の多様な表現を届けるローカルメディア「まるまる新聞」の発行や、地元高校と連携した自己表現プログラム、こども・若者が主体となってつくる文化祭を展開し、中高生世代を中心に、アートを通じて社会に自分の思いや個性を発信できる場を広げた。また、アート分野での地域部活としての受け皿づくりにも取り組んでいる。

『まちなか文化祭(まるフェス2025)』

実施日程：2025年 9/7
会場：みんなの公民館まる、焼津駅前通り商店街

『アート・芸術活動の地域部活の受け皿づくり・さかさまクラス』

実施日程：地域部活 2025年 6月～2026年 2月
さかさまクラス 2025年 12/21
会場：みんなの公民館 まる

ローカルメディア「まるまる新聞」の編集・発行

発行時期：2025年9月、2026年2月(各500部発行)

関係者数(延べ) 78人

地元中高生(まるフェス実行委員、若者記者)、焼津高校生徒・教員、地域住民、原木雅史(グラフィックデザイナー)等



土肥 潤也 さん

若者の自己表現が、地域の日常になる未来をつくっていきます。

11

井戸端会議室

団体名：井戸端会議室

地域：富士市



富士駅北口エリアの再開発にあたり、井戸端会議室の定期開催や記憶の収集をする調査団にゲストを招き、住民主体のまちづくりについて考える機会を設けた。駅前を“作る”組合・地権者と“利用する”住民が継続的にコミュニケーションできる場を提供し、様々な団体と地域が共創できる基盤を築いている。

『大井戸端会議』

実施日程：2025年 8/9
会場：富士駅北口まちづくりセンター

『ツレツレ弁当ワークショップ』

実施日程：2026年 2/1
会場：富士駅北口道路上、北口まちづくりセンター

関係者数(延べ) 185人

中脇健司(大阪芸術大学准教授、場とコトLAB代表)、繁田和美(空間デザイナー)、かなりあ音楽堂、軽トラ市出展者、まちおくりイベント参加者、エキキタテラス参加者、富士駅北地区まちづくり協議会、富士市民 等



高橋 晃一郎 さん

エキキタで井戸端はずみ人まじる

9

用宗アートプロジェクト

団体名：用宗アートプロジェクト

地域：静岡市



静岡市用宗を拠点に、アーティスト・イン・レジデンスや地域イベントを実施し、人・場所・活動のゆるやかな連携を生み出す取り組みを行った。歴史ある港町の魅力と現代的な観光資源を融合させた持続可能な観光エリアの形成を目指している。

『Mochimune AIR』

実施日程：2025年 7月～2026年 2月
会場：PORTO、用宗港西側屋根付き多目的広場、用宗漁港第3冷蔵庫

『もちむね文化市』

実施日程：2025年 11/9
会場：用宗港西側屋根付き多目的広場

関係者数(延べ) 40人

AIR参加アーティスト(石川洋樹、小澤京子、鈴木孝幸)、CSA不動産、West Coast Brewing 等



佐々木 ユキオ さん

住民の充足感とアートで育む日常を彩る創造性

14

三島満願芸術祭

団体名：三島アートプロジェクト実行委員会

地域：三島市



『三島満願芸術祭2026』及び 関連イベント、ワークショップ

実施日程：2026年2/7～3/1の金土日祝
会場：三嶋大社芸能殿、guest house giwa、白滝公園、三島田町駅西、佐野美術館隆泉苑、源兵衛川沿いさん太前、根継商店、KAWATA BLD. 本町、浅間神社仮社務所

関係者数(延べ) 75人

牛島光太郎、NOOK、かえつ有明中学校(東京都江東区)2年生、橘葉月、柴田まお、Canis lupus familiaris、辻梨絵子、小林万里子、古川諒子、三島市、三島市観光協会、佐野美術館、三嶋大社、まちの保健室、山下裕子(広場ニスト)等

三島満願芸術祭は、空き店舗での現代アート展示や各種イベントで街のにぎわいと関係人口の創出を目指している。今年度は、東京の中学生が作品制作に携わるとともに、アーティスト公募を行い、芸術祭や三島の街と多くの人がつながる入口になることを目指した。

地域にもっともって
染み込む芸術祭を作ります!



山森 達也 さん

15

東海道中踊栗毛(とうかいどうちゅうおどくりげ)

団体名：一般社団法人スケラボ

地域：函南町



『東海道中踊栗毛 沼津宿公演』

実施日程：2025年7/19, 20
会場：沼津中央公園、沼津ラクーン

関係者数(延べ) 120人

松岡大(舞踏家)、藤谷香子(衣装家)、武田直之(音楽家)、及川紗都(ダンサー)、マツナガマサエ(画家)、Doramaru(音楽家)、軽野造船所、吉田温泉、静岡県立沼津視覚特別支援学校、駿河湾沼津FC『ハリプロ映像協会』等

沼津宿の歴史や伝統文化、芸能、名物などを地域の人々にリサーチし、現地のキーパーソンや地域をよく知るクリエイターと協働して、その場でしか生み出せない作品を制作した。作品制作やリサーチに地域住民を巻き込み、地域の魅力発信や普段芸術に触れにくい観客層の拡充につなげた。次は吉原宿へ。

地域の皆さんの創作意欲を
掻き立てるような、
巻き込み型作品をつくります!



川上 大二郎 さん

12

押し活 OYAMA Hometown FES

団体名：小山町商工会

地域：小山町



『押し活おやま Home Town Fes』

実施日程：2025年11/9
会場：小山町総合文化会館

関係者数(延べ) 46人

一宮周平(劇団パンチエッタ主宰)、渡邊理絵(Atelier Monte Piccolo主催)、小山町商工会会員、まちづくり公社おやま、小山町観光協会、小山高校吹奏楽部・ダンス部ほかステージ参加者等

個人の趣味や嗜好に加え、町の特産品や自然環境など、住民が誇りに思う「好き」をヒアリングし、アーティストと地域住民が協働してパフォーマンス作品を制作した。これにより、地域の声を引き出す新たな手法を提示するとともに、「何も無い」と思っていた町を地域住民自身が再発見する機会にもなった。

「好き」が溢れる町おやまへ、
小さな挑戦を続けます。



渡邊 辰雄 さん

13

地域コミュニティ活性化に向けた伝統芸能活用プロジェクト

団体名：しゃぎりフェスティバル実行委員会

地域：三島市



『しゃぎりフェスティバルZ』

実施日程：2025年9/15
会場：三島市立公園 楽寿園

しゃぎり活用ワークショップ

実施日程：2025年12/5, 12/10, 12/16, 2026年1/13

しゃぎり体験ツアー

実施日程：2025年7/7, 7/19

関係者数(延べ) 580人

磐城じゃんがら彩志会、KUSHIMA BAND、生活介護事業所おんすいち、三島市国際交流室、三島市立加茂川町保育園ほか市内保育園・小学校、日本大学国際関係学部矢嶋ゼミ、しゃぎり保存会等

これまで実施してきたしゃぎりフェスティバルを、伝統芸能継承モデルの実践・トライアルの場として再定義し、演奏者と一般の距離を縮める仕掛けや他地域とのネットワーク構築を行った。また、小学生・大学生向けワークショップや移住者向け体験ツアー、幼稚園等対象の出前講座を実施し、しゃぎりの認知度向上を図った。

伝統芸能「しゃぎり」で
地域内外をむすび未来へつなぐ



福田 勝彦 さん

18

第二期 イナトリアートセンター計画

団体名：イナトリアートセンター運営委員会

地域：東伊豆町



東伊豆町稲取地区に残る旧邸を改修した宿泊施設「湊庵 路考茶」に、伊豆半島南部のアートに関する情報や活動が集まるアートセンター機能を付加するプロジェクト。地域を丁寧に掘り下げ、忘れられかけている地域の歴史や住民のニーズを掘り起こしながら、それらを土地の魅力と結びつけた場づくりへとつなげた。

『第3回イナトリ・アート・フェス』

実施日程：2026年 2/6～2/23
会場：湊庵路考茶(旧西山邸)、日本文庫、お惣菜 なぎ、ダイロクキッチン、まちのレセプションようよう

関係者数(延べ) 97人

癸生川栄(ディレクター)、市川平(特殊照明作家)、安部良(建築家)、白須純(アーティスト)、池田ひとみ(アーティスト)、赤石雄(アーティスト)、古屋郁(銅板画家)、東京藝大建築学科安部研究室等



荒武 優希

みんなで作ったこの種を大切に育てていきます。

コラム

伴走者の目線から ～2025年度クリエイティブ支援～

アーツカウンシルしずおか チーフプログラム・ディレクター 櫛野展正



地域クリエイティブ支援では、多分野を横断するアートプロジェクトが展開された。その一例が「掛川百鬼夜行」である。外国人技能実習生が母国の伝承と日本の妖怪を融合させた「妖」を創り出し、地域の皆さんと共に街を練り歩く互いの文化が混ざり合い新たな風景を創り出したこの試みは、多文化共生の確かな一歩となった。こうした個の主体性を引き出す動きは各地に広がっている。小

山町商工会の演劇では、町民が「野球のメンバーが足りない」といった実感を語り出し、アートひかりの演劇でも、地域の皆さんが地元の偉人役に挑む殺陣を通じて舞台を自らの表現の場へと変えている。一般社団法人トリナスによる「さかさまクラス」は、高校の選択科目に採用され、中学生が入学を希望するなど地域を動かす力となった。

この連帯は地域の底力としても結実している。海と山の文化市実行委員会の寄り合いは、台風被害の際に即座にボランティア組織へ姿を変え、迅速な支援を実現した。熱海怪獣映画祭ではスタッフが祭りの担い手として地域を支え、設営を請け負うなど活動がコミュニティの基盤に溶け込んでいる。

また、藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会による、客席用の椅子を持ち寄るプロジェクトなど「関わりしろ」を共有する設計が、街を自分たちで塗り替える実感を生んでいる。成功の要因は、運営側が現場の自発性を信じ権限を委ねた点にある。こうした共創は、一人ひとりが街を自分事と捉え、自ら動き出す土壌を育てていった。それこそが、本事業がもたらした最大の価値といえる。

16

熱海発!!次世代クリエイター資源化プロジェクト

団体名：一般社団法人熱海怪獣映画祭

地域：熱海市



『第8回熱海怪獣映画祭』

実施日程：2025年 10/18, 19
会場：熱海芸妓見番、熱海魚市場 ほか

関係者数(延べ) 330人

伊藤和典(脚本家)、井上誠(音楽家)、開田裕治(イラストレーター)、樋口真嗣(映画監督・特撮技術監督)ほか怪獣映画関係者、笠井信輔(フリーアナウンサー)ほかゲスト、出店者、協力協賛企業・団体、熱海芸妓置屋連合組合、熱海魚市場、熱海商工会議所、熱海市観光協会等



水野 希世

怪獣文化で次世代クリエイターを育成!

数々の怪獣映画や特撮作品の舞台となってきた熱海を「怪獣の聖地」として盛り上げるべく、市民有志が企画・運営する「熱海怪獣映画祭」。上映や参加型イベントを通じて、人とまちの交流とにぎわいを生み出し、映画祭を機に連携したクリエイターや、発掘した映画関係資料など、かけがえのない資源を熱海で活かす仕組みづくりに取り組んだ。

17

第7回熱海未来音楽祭

団体名：熱海未来音楽祭

地域：熱海市



『第7回熱海未来音楽祭』

実施日程：2025年 8/19, 9/15, 11/29, 30
会場：起雲閣 音楽サロン、EOMO store、渚湯、旧美容室 & CL、つたやビル屋上、熱海駅前仲見世商店街広場、熱海第一小学校学童クラブ ほか

関係者数(延べ) 133人

巻上公一(音楽家・詩人)、町田康(作家)、西山友貴(ダンス)、イルマ・オスノ(ダンス、ヴォーカル)、若羽幸平(舞踏)、天鼓(ボイス)、内橋和久(ギター・ダクソフォン)、佐藤充彦(ピアノ)、黒谷都(人形演劇)、サム・ベネット(パーカッション)、長与江里奈(ダンサー)、伊藤千枝子(ダンサー)、佐藤正治(ドラム、パーカッション)、長峰麻貴(舞台美術家)、ほか出演アーティスト、NPO法人LAND FES 等



巻上 公一

わからなくてもいい音楽と歩く未来へそっと灯をともらしたい

ジャンルに当てはまらない、どこの国のものか分からない、でも何か魅力を感じる、心に残ってしまう、非常に親密でかつ未来を拓く力を持つ音楽祭を、歴史ある温泉観光地・熱海で開催する「熱海未来音楽祭」。熱海の多様なアーティストと連携し、ワークショップ等を通じて「即興」をテーマにしたジャンルレスな交流が生まれた。

24

つながるはじまるプロジェクト「KIKKAKE」

団体名：テーブルシアター

地域：静岡市



つながるはじまるシアター
『3匹のやぎは、がらがらどん!?』上演

実施日程：2025年 6/7
会場：社会福祉法人静岡ホーム 楓ホール

つながるはじまるワークショップ

実施日程：2025年 6/21, 7/5
会場：社会福祉法人静岡ホーム 楓ホール

関係者数(延べ) 16人

棚川寛子(舞台音楽家)、吉見亮(俳優)、三島景太(俳優)、森山冬子(俳優)、若宮羊一(俳優)、吉川剛史(制作)、社会福祉法人静岡ホーム、静岡ホームの子どもたち、井宮町町内会、地域住民等

児童養護施設の子も達と地域住民が、演劇を通じて交流するプロジェクト。今年度は施設職員と連携しながら、子どもの特性やニーズに寄り添った演劇ワークショップを実施した。その過程において子どもと地域住民が自然に関わる機会を創出し、社会的なつながりを育みながら、地域全体で子どもを見守り・支えていく意識の醸成を目指した。

一つ一つ誠実に積み重ねる。



棚川 寛子 さん

22

『クビ』か『ウチクビ』か

団体名：HAHAHANO. LABO

地域：静岡市



企業訪問『羽ばたけ!「クビ」か「ウチクビ」か 出張座談会』

実施日程：2025年 6/10, 8/4, 10/2
会場：静岡鉄道株式会社、しずぎんハートフル株式会社、村田ボーリング技研株式会社 ほか

やればできる!障害者の副業「ウチクビ」だけ元本保証

実施日程：2025年 11/8
会場：シェアオフィス=ODEN(静鉄コワーキングスペース) しずぎんハートフル株式会社 ほか

関係者数(延べ) 193人

静岡鉄道株式会社、しずぎんハートフル株式会社、村田ボーリング技研株式会社、株式会社エイエイピー、松浦一樹(マツウラコーヒー)、柴田千枝美(グラフィックデザイナー)、近藤ゆきえ(カメラマン)等

障害当事者が“与えられた仕事”ではなく、自ら選び、希望をかなえられる「新しい仕事」が作れないだろうか?企業と当事者ができるだけうっかり出逢ってしまい、その手があったか!という雇用を探る。“おもしろそう”という入り口を作ってそこに触れることで、お互いが創造していける「仕事」「学び」「生き方」を模索しながら活動を展開した。

メンバーが主体的に動き、周りを巻き込んで創るまじカオスの状態。



二宮 奈緒子 さん

25

第4回三保海浜マラソン

団体名：三保海浜マラソン実行委員会

地域：静岡市



『第4回三保海浜マラソン～わらって はしてつながって～』
・ウォーキングツアーの部 ・ふじさんの部

実施日程：2026年 1/17
会場：清水三保海浜公園、清水灯台周辺(吹合ノ岬、羽衣の松付近)

フォトコンテスト

実施日程：2025年 11/15～24
会場：あいむ三保

関係者数(延べ)65人

清水和太鼓連絡会、宮城嶋遥加(舞台俳優)、電気屋あいむ三保店、就労継続支援事業所利用者の皆さん、地元高校写真部、地元アマチュアカメラマン等

清水区三保の砂浜を走る「三保海浜マラソン」を通じて三保松原の魅力を発信し、大会づくりの過程を多くの人と共有することで、プロジェクトに主体的に関わる仲間や地域への愛着をもつ人を増やすことを目指して活動している。今年度は、学生・住民との写真展をはじめ、野外で文化財の価値を体験できる探検会や企業連携なども展開した。

三保松原の文化財としての価値を、体験で伝えます!



宮城嶋 開人 さん

23

2025夏休みこどもシアター

団体名：一般財団法人 静岡市国際交流協会

地域：静岡市



『2025夏休みこどもシアター』

実施日程：2025年 8/5～9
会場：教覚寺会館

関係者数(延べ) 32人

布施安寿香(俳優)、関鎮京(北海道教育大学岩見沢校 准教授)、望月奈津子(日本語指導員)、大学生スタッフ、静岡市内の子どもたち等

日本人の小学生と外国にルーツをもつ小学生が、演劇を通して交流するプロジェクト。自分とは異なる価値観や文化的背景に触れながら学び合い、多様な人々と協働していく力を育むことを目指している。今年度の取組みを通じて、外国にルーツをもつ子どもに特化した取り組みの重要性や、演劇を活かした多文化共生事業の新たな可能性を示した。

多文化共生×アートの可能性を模索していきたいです。



別所 美和 さん

28

アフリカルチャー・クリエイティブ・エイジング&インクルーシブ・プロジェクト

団体名：アウラの森芸術舎

地域：伊豆の国市



『対話型鑑賞会と制作発表会』
アフリカルチャー・インクルーシブ・プロジェクト
～「誰一人取り残さない」社会のために～

実施日程：2025年 8/18
会場：カフェナマケモノ

アフリカルチャー・クリエイティブ・エイジング・
プロジェクト～創造的に歳を重ねるために～

実施日程：2025年 4/1, 9/2
会場：伊豆の国市菰山福祉保健センター「いずのんカフェ」

関係者数(延べ) 62人

菰山地域包括支援センター、就労継続支援B型事業所
「ブルービート」、アール・ゆるっと(板野
泉・中野佳子)、原民子(コーディネー
ター、グラフィックデザイナー)



磯貝 さおり さん

アフリカ現代美術による対話型鑑賞で、
文化芸術を施設の現場に!

高齢化や地域のつながりの変化を背景に、認知症カフェや障害者施設にて、アフリカ現代美術を活用した対話型の鑑賞・制作会を実施。その現場では、古代から受け継がれるアフリカの「共生」の精神が参加者の心を揺さぶり、施設関係者との交流も生まれるなど、アートを介したケアを地域に広げていく、新たなモデルづくりへとつながった。

26

MIMASプロジェクト アート×音楽×α

団体名：わいワイクラブ

地域：富士市



『へんしんにじいろベンチプロジェクト』

実施日程：2025年 9月～11月
会場：伝法まちづくりセンター

『にこにこミュージック』

実施日程：2025年 7月～10月
会場：伝法まちづくりセンター、伝法小学校

関係者数(延べ) 77人

ペトロ&ヨゼフ(アーティスト)、伝法小学校の児童、職員、保護者、伝法地区まちづくり協議会、伝法地区住民等



四條 秀樹 さん

子どもと大人は、アートと音楽の
まちづくりのパートナーです!

豊富な人材や、紙バンドという地域特有の素材を活用して、子どもたちがアートや音楽活動を様々な人々と協働しながら展開していくことで、伝法地区のコミュニティが強化されることを目指した。

27

沼津影絵畳プロジェクト

団体名：Artspace 入サ岩崎商店

地域：沼津市



『沼津影絵畳プロジェクト』

実施日程：2025年 7/19～26
7/19,20(ミニ量ワークショップ)、7/20(クロストークイベント)
会場：Artspace 入サ岩崎商店

関係者数(延べ) 40人

浅野ひかり(現代美術作家)、稲村崇(1930年創業「稲村畳店」3代目)、佐々木千彩美(Artspace入サ岩崎商店オーナー) 等



佐々木 千彩美 さん

自由な表現の場を提供し、
自走する拠点を目指します。

沼津市の畳職人とアーティストが協働し、畳材料卸問屋だったArtspace 入サ岩崎商店で、畳を素材にした展示やワークショップ、制作の裏話や畳業界の現状を語るクロストークを開催。地域住民同士を繋げ、新たなコミュニティの創出を目指した。

コラム

伴走者の目線から ～2025年度はじまり支援～

アーツカウンシルしずおか チーフプログラム・ディレクター 櫛野展正



地域はじまり支援では、個人の切実な衝動が周囲を巻き込み、地域社会に新たな価値をもたらす瞬間が数多く見られた。たとえば、HAHAHANO.LABOと静岡鉄道株式会社との共同イベントでは、静鉄社員とメンバーが特技を披露し合い、占いやダンスなど枠に捉われない出店を展開。駅周辺という公共圏に、損得勘定を超えた個人の表現が溢れ出す豊かな風景を描き出した。ほかにも、アーティストが街を歩く中で偶然

出会った人々が、入サ岩崎商店に新たな客として訪れるといった、予想外の波及効果も生んでいる。特に、高齢者のウェルビーイングに寄与する活動も大きな成果を上げている。合同会社たゆたうによる「ロマンディスコ」は、福祉施設をきらびやかなディスコ空間へと一変させ、音楽と映像で高齢者の情緒的な活性化と生きがいを引き出した。また、アウラの森芸術舎はアフリカ現代美術を介した対話型鑑賞を実施。自身の記憶を語り合う回想的アプローチにより、属性を超えた対話の場を生み出している。こうした「自分事」の連鎖は各地に及んだ。三保海浜マラソンでは地元電気店の発案による撮影会が公式企画化され、富士市伝法地区の「わいワイクラブ」ではメンバーの声を反映したタイル絵制作により多世代交流が加速。静岡市国際交流協会では、演劇的手法により外国にルーツを持つ子どもたちが主役となる機会を創り出すなど、小さな声を形にする「実験の場」が各地で誕生している。ここで生まれた未完成的な熱量は、住民が主体的に街を動かす「はじまり」の力として、今後さらに大きなうねりへと繋がっていくはずである。

「マイクロ・アート・ワーケーションで
静岡に行ってきました報告会」11/27開催

2人の旅人、都田かほ氏(奥駿河湾周辺に滞在)・
よしのももこ氏(長泉町に滞在)によるトークイベ
ント。東京と大阪の2会場をオンラインで繋いだ。

主催:都田かほ 協力:orangcosong



Atelier Chanvre株式会社
浜松市天竜区二俣～竜川地区

旅人 杉原真樹、宮城嶋遥加、
鈴木きか



まちのためのあつまり口
磐田市

旅人 葉栗翠、上野貴弘、伊藤乃愛



にしたな株式会社
袋井市・磐田市

旅人 光延咲良、古川はるな、
Keijiro Suzuki / 鈴木啓二郎



一般社団法人どまんなかセンター
袋井市

旅人 東山佳永、maya、黒木龍世



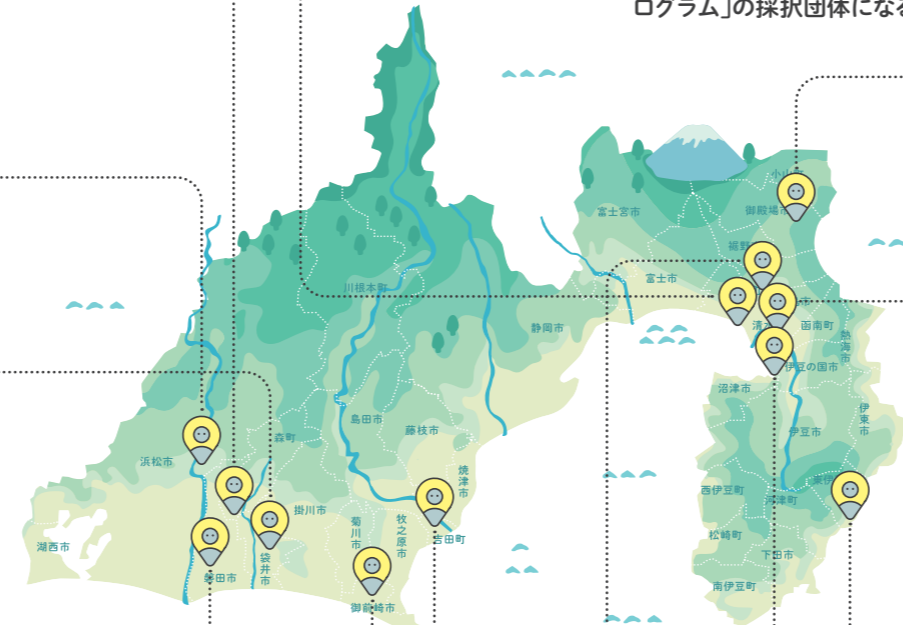
OMAEZAKI STYLE CLUB
御前崎市

旅人 鈴木絢子、高梨麻梨香、
水田雅也



ながいずみ観光交流協会
長泉町

旅人 よしのももこ、松本 真結子、
堀井ヒロツグ



吉田クラフトフェア実行委員会
吉田町

旅人 サノタコ、奥間空、持塚三樹



縁側日和
沼津市錦町

旅人 かずさ、神里雄大、竹本旭曜



OKUSURUGABOARD
奥駿河湾周辺(沼津市・函南町・伊豆の国市)

旅人 都田かほ、杉山雅紀、
小鷹拓郎



富士山文化ハウス
御殿場市

旅人 宮悠介、村上美樹、岩佐美紀



合同会社so-an
東伊豆町稲取地区

旅人 久保田舞、後藤理菜、中西凜



サントムーン柿田川
清水町、静岡県東部・伊豆全域

旅人 林汰一、宇田奈緒、
桐山ショウゴ

マイクロ・アート・ ワーケーション(MAW)



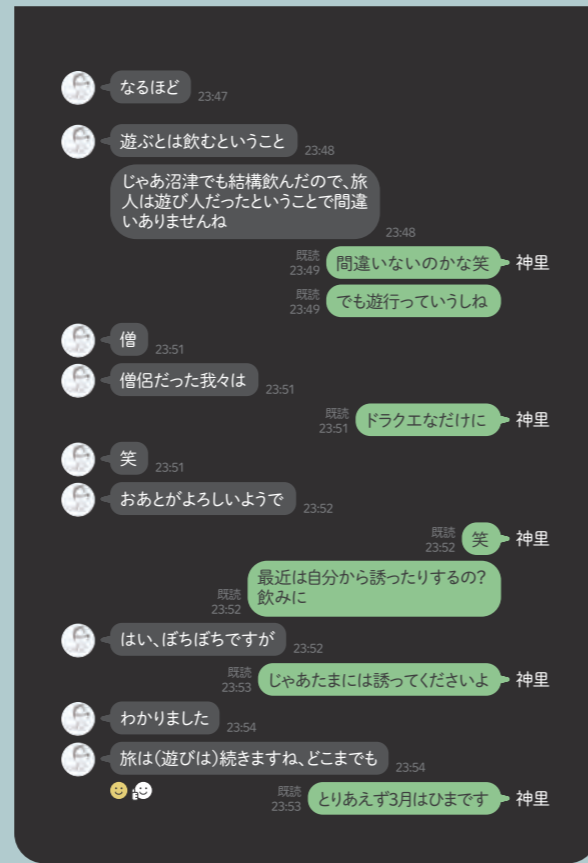
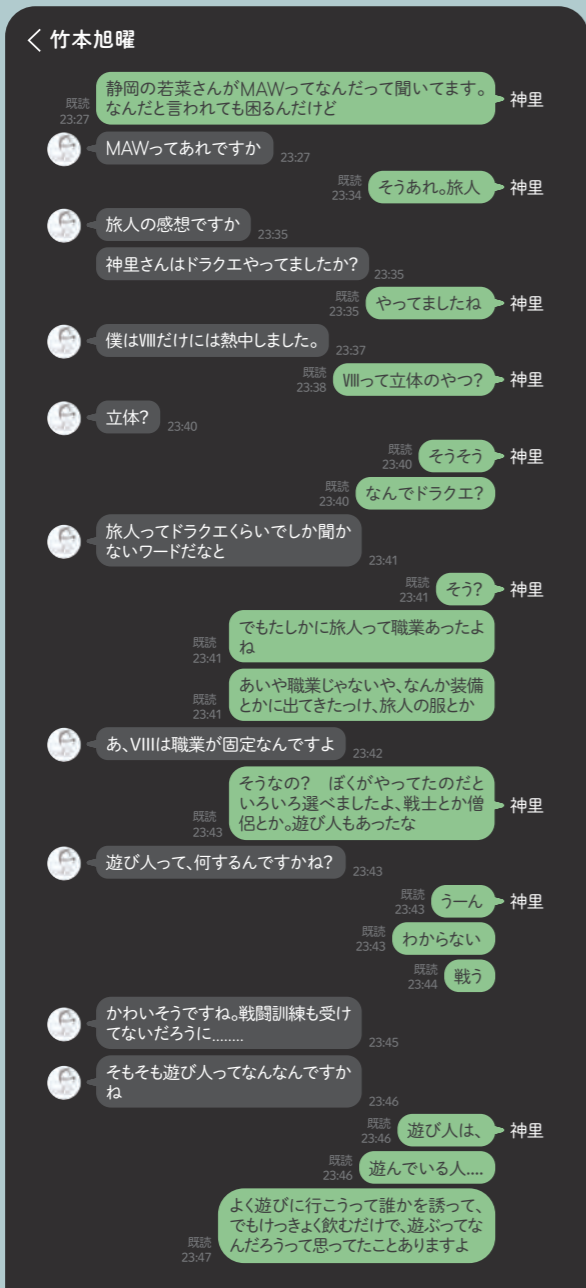
5年目となるマイクロ・アート・ワーケーション(MAW)は、静岡県内各地で活動する団体が「ホスト」になり、全国から公募で集まったアーティストなどのクリエイティブ人材を「旅人」として受け入れ、地域とその人材の出会いをつくる取り組み。今年度は、4月から6月にかけてホスト及び旅人の公募とマッチングを行った結果、県内全域で12団体のホストと、14都府県から36人が旅人として参加することが決定。8月から11月の間、旅人は6泊7日の日程でホストの活動エリアに滞在した。

ホストと旅人、旅人同士の交流は各地での滞在期間終了後も継続し、地域を巻き込んだ展示会や写真展、コンサートの開催、さらには旅人主催の東京でのトークイベント(左上参照)開催に繋がるなど、関わった人々の思いが自由に歩き出し、思いもよらぬ形に発展していくのもMAWの醍醐味といえる。また、今年度ホストを務めた団体が、2026年度「文化芸術による地域振興プログラム」の採択団体になるなど、県内でアートプロジェクトに着手する市民団体を増やすきっかけにもなっている。

旅人 神里雄大(劇作家)×竹本旭曜(筑前琵琶奏者)

「MAWってなんだ？」

2021年初夏、アーツカウンシルしずおかの本格稼働からほどなくして産声をあげた「マイクロ・アート・ワークショップ」、通称 MAW。地域とアーティストとの交流を促進する事業と説明してみることにはできるけど、それってつまりどういうことなのか。県内各地に滞在した旅人総数は5年で延べ209人。旅人の数だけMAWはある。ような気もするけどどうなのか。「ま」と口にしてみるといい具合に力が抜けるこの事業の正体が、今年度の旅人たちの言葉から、ちょっとだけ見えなくてもいいかな。



写真左・神里雄大 Kamisato Yudai 劇作家、舞台演出家。国内外各地を訪れ採集したエピソードを元に、「移民」「観光」をテーマに創作・発表している。



写真右・竹本旭曜 Takemoto Kyokuyou 筑前琵琶奏者。各地での演奏に加え、学術研究や楽器改良を通じて琵琶の新たな可能性を追求する。

旅人 高梨麻梨香(アーティスト)

「来し日々は波のひとひら御前崎 去りても尚、残響となる」

マイクロ・アート・ワークショップ(以下、MAW)とは何だったのか。その輪郭はいまも言い表しにくい。というのもMAWは、アーティストが旅人として地域を訪れることで、土地や関係性の読み替えが静かに、そして偶発的に起こる仕組みを持っているからである。その変化は進行中には捉えにくく、時間を経たから初めて意味を帯びる。未来のどこかで何か芽吹いたとき、「あのときのMAWがきっかけだった」と理解される性質の取り組みだと言える。

ホストはそれぞれの思いや課題意識をもってアーティストを迎え入れ、アーティストはホスト団体の支援を受けながら、自身の関心に基づく実地調査を行う。その過程や日々の出来事はnoteという開かれた記録として蓄積されていく。一方で、アーツカウンシルしずおかは出会いの設計と接続を担いながら、現場で起こる具体的な展開については委ねる立場を取っている。参加者各々の判断と姿勢によって成り立つ、ゆるやかで健やかな自治的な枠組みであった。地域住民がホストとしてアーティストの伴走役を務めることで、

地域と旅人のあいだに新しい反応が生まれる。それは即時の成果ではなく、対話や体験を通じて、確かに関係が育っていく過程である。アーティスト、ホスト、そしてアーツカウンシルしずおかのいずれもが、MAWでの出会いをひとつの種として受け取り、時間の経過のなかで別のかたちへと育っていく可能性を共有している。MAWは、結果ではなく関係の発芽点を各地に残していく実践なのではないだろうか。

高梨麻梨香 Takanashi Marika

2023年秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科修了。日本各地のAIRIに参加しながら【音響】を主な表現方法として活動している。主な活動に「黄金町パザール2025」(黄金スタジオ,2025)「ライブ!」(BankART Station,2025)など。



MAW NOTE

旅人として各地に滞在したアーティストたちは、日々の出来事や思索をそれぞれの言葉でnoteに綴りました。このページでは、その記録の中から「海」「歩く」という二つのキーワードに着目し、いくつかの文章を抜粋します。アーティストたちは、風景の中から新たな輪郭を描き出し、日常に潜む音から音階を紡ぎ、土地の歴史を自身の記憶を手がかりに読み解いていきました。ここに並ぶ言葉の断片から、旅人たちが滞在地とどのように出会い、感じ、考えたのかを垣間見ることができます。それぞれの視点から立ち上がる、静岡の風景を感じてください。

旅人、ホストのnoteはこちらから



長泉町にある「世界 小さな公園」では、風変わったことが起きた。旅人たちはその名物スポットで小さな展示を試みたり、お弁当を食べたりと、思い思いにこの極小空間と向き合った。彼らの視点は、日常に埋もれていた風景や時間の手触りをすくい上げ、町の魅力をあらためて照らし出す。世界 小さな公園は、町にとって小さくない出来事の舞台となっていた。(長泉町)

海

この旅でなかったらきっと、車から降りた瞬間に車に戻っていたらと思う。でも今は、この土地を感じ尽くすことを大切にしたいと思っている。ここまで来て海を見なかったら後悔すると、いつもと違う行動をしてみた。そうしたら、いまここにある世界に本当の意味で目が向けられ、忘れていた当時の私に会うことができた。胸がぎゅっとなりながら、久しぶりだねと心の中で語りかけた。

古川はるな「海とサウナ(5日目)」より 袋井市滞在

御前崎で見つめていた空も海もきつと青くて、その色調こそ違えど、この青い景色たちが自分の中で混ざって段々と日常に戻っていく。(中略)

この土地の記憶をもって、私はどんな音楽をつくらうか。土地の歴史、人の記憶、今を生きた想い、旅人の方々の思考、それを眺める他者的(同時に当然に主観である)な自分の思想、いつかそれを音楽として再生する動作、それを誰かが聴くという活動、こうしたさまざまなレイヤーを重ねていくことで作用するポリフォニー的な何かになればいいと思う(ならないかもしれない)。

鈴木絢子「青い記憶(7日目)」より 御前崎市滞在

病への偏見と差別、無らい県運動や国策による不条理な立場となり、家族と別離し、喉の切開手術によって言葉を発することもままならず、さらに盲目となった海人の言う「深海」は、比喩でありながらも、ずっと眼底に描き続けた故郷の駿河湾でもあったのかと、この言葉に出会ってから16年が経過して初めて思い至ったのだ。

かずさ「滞在まとめ」より 沼津市滞在

歩く

その後、急に思い立って天竜川沿いを歩いてみることにしました。磐田駅からJRで一駅、豊田町駅に降り立ち、川を目指して歩きます。天竜川を挟んで西が浜松市、東が磐田市。江戸時代以前は「あばれ天竜」と呼ばれ、大雨のたびに氾濫を繰り返していたそうです。

上野貴弘「天竜川を散歩する」磐田トラベログのためのメモ(滞在2日目)より 磐田市滞在

忘れられていた曲が浮かび上がる。浮かび上がった音楽が連鎖し、他の音楽を呼ぶ。真夜中にワイルドターキーのハイボール缶を飲みながら町を歩く。そして歌う。幸い夜の吉田町にはほとんど人通りがない。田んぼの横を歩き、焼津市へつながる長い橋を歩きながら、僕は歌った。酒を飲むのも歌うのもずいぶん久しぶりのことだった。毎日夜中になるとそうやって、乾いていたなにかが潤っていった。

奥間空「吉田町滞在まとめ」より 吉田町滞在

旅人の受入が5年目になる土地では、小さな変化が起きている。私設図書館「さかいめ」では、旅人が訪れる日、棚主たちがいつもより少し長く棚の前に立ち、本の並びを整える。アーティストが集うと知り、いつもとは違う選書を意識する。そのささやかな準備を通して、歓迎の思いが高まっていく。偶然の出会いだったはずの場に、ゆるやかな期待が重なりはじめた。さまざまに訪れる旅人から、ともにまちの面白さを見出すパートナーへ——そんな兆しが、確かに見えはじめています。(御殿場市)

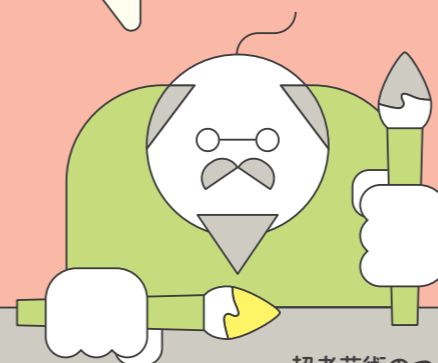
超老芸術

アーツカウンシルしずおかでは、設立初期から、高齢になってもなお独自の創作を続ける表現を「超老芸術」と名づけ、その発掘と紹介を続けてきた。2025年9月には、これまでの知見に基づき「高齢者の文化芸術振興に関する提言書」を発表。今や「超老芸術」は、第6期静岡県文化芸術振興基本計画の重点施策において、核となる具体的取組「超老芸術のブランド化」として位置づけられている。それは誰もが自分らしく生きるためのロールモデルであり、静岡県のウェルビーイングを象徴する重要な概念として、大きな注目を集めている。

「高齢者の文化芸術振興に関する提言書」は、超高齢社会における文化芸術の役割と可能性を提示するものです。高齢者の生きがい創出や健康寿命の延伸に向けた7つの柱をまとめました。「超老芸術」の推進や、人生を語るナラティブ・アプローチの普及、施設への芸術導入など、現場での知見を活かした具体的なアクションを提案しています。文化芸術の力で、一人ひとりの幸福度を高める社会を目指します。



ダウンロードはこちら



超老芸術のつくり手たちを囲んだ座談会と作品鑑賞会を開催

超老芸術と考える「わたし」のウェルビーイング

日程 11月22日(土)13:00～17:00

会場 グランシップ 6階 交流ホール

来場者数 106人

[プログラム]

超老芸術座談会「表現」にまつわるエトセトラ

超老芸術のつくり手たちが人生で培ってきた知恵と創造性が、どのようなきっかけで芽生え、花開いたのかを若者たちとの対話から導き出す座談会。

〈登壇者／つくり手〉

岩崎祐司(1946年生まれ/静岡県焼津市)

近藤正勝(1945年生まれ/静岡県静岡市)

城田貞夫(1940年生まれ/広島県福山市)

〈対談相手〉

酒井田のど香(東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部3年生)

大林和(常葉大学造形学部1年生)

二宮幹(HAHAHANO.LABO)

超老芸術おしゃべり鑑賞会「パロディ笑刻」を創造する

ダジャレを彫刻で表現する岩崎祐司さんを囲み、作品の元ネタを参加者が推理する対話型の鑑賞会。



Report

「息子の嫁を探しにきた。ギャルはおるんかのぉ。」

コンプライアンスが叫ばれる世の中に、これほど痛快な一蹴があるだろうか。静岡市のグランシップで開催された「超老芸術と考える『わたし』のウェルビーイング」は、超老芸術のつくり手3名と若者たちが語り合う場のはずだった。しかし蓋を開けてみれば、そこは超老たちの圧倒的なエネルギーが会場を覆い尽くす独壇場と化していたのである。

広島から日帰りで参加した城田貞夫さんにとって、表現とは理屈ではなく欲望の直結だ。「笑わないと病気になる」と公言し、己の欲求にどこまでも誠実であり続ける。その自由奔放さは、老いや病を跳ね返す野生的な健康の源泉そのものであった。

焼津市の岩崎祐司さんは、自転車店を営む傍ら、50歳で「パロディ彫刻」を編み出した。「仏像を彫っていた頃より自由につくれている」という言葉通り、他人の評価を一切気にせず、ライバルのいない道を歩んでいる。誰の承認もいらぬ孤高の面白がり方こそが、彼らを支える精神的支柱となっていた。

清水区の近藤正勝さんの作品には、宿命に抗い立ち上がる再生の力が宿っている。父が携わった風船爆弾の記憶と、数十年後に自らテストパイロットとして大空を舞った体験。脳梗塞で自由を奪われた彼を救ったのは、空で刻まれた強烈な身体感覚だった。「大地を蹴り上げたとき、地面がとても柔らかかった」。リハビリとして彫り始めた版画に当時の浮遊感を刻み直す姿は、芸術が単なる趣味を超えた「生きるための技術」であることを物語っている。

この熱量に触れた観客からは「世間の目を気にしすぎている」「縮こまっていたのが恥ずかしい」との声が漏れた。SNSの承認欲求や「正しさ」に息苦しさを感ずる世代にとって、若者を軽々と自らのペースに巻き込む超老たちの姿は、最高にパンクな教科書となったのである。

ウェルビーイングとは、世間の期待に応えることとは限らない。周囲の雑音から耳を塞ぎ、外側の物差しを遮断して、ただそこに在る自分を徹底的に面白がること。超老たちはその背中で、人生はいくつになっても愉しめるという真理を語っていた。(柳野展正)



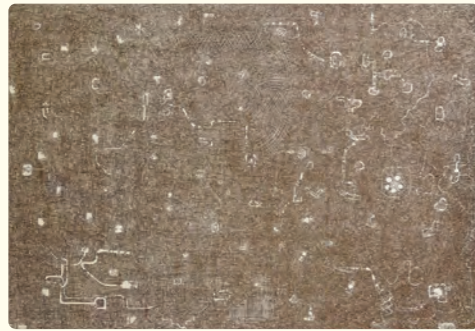
(撮影: 近藤ゆきえ p34、35)

野村一雄



1949年生まれ
静岡県静岡市
27歳の時、クラシック音楽鑑賞中の居眠り防止で巨大迷路を描き始め、7年かけ完成。印刷したもののが多くが手元に残り、30年間倉庫に眠らせて

いた。しかし2013年、娘がSNSへ投稿したことで事態が一変。世界的な注目を集め、人気漫画『ワンパンマン』の作画背景に採用されるなど、30年の時を経て大きな話題となった。



山下弘明



1955年生まれ
静岡県浜松市
37歳からバス運転手として勤務。20年以上前、飼い犬の犬小屋が台風で破損したことを機に、松本城を模した犬小屋の制作を開始。その後は、札幌

時計台風の防災シェルターなど、独学で様々な木工制作を自宅の敷地内で続けている。自宅裏の畑につくった木製の零戦は実際に搭乗することもできる。



城田貞夫



1940年生まれ
広島県福山市
東京で「はとバス」の運転手として23歳まで働いたあと、広島県福山市に戻り自動車の塗装業を経て、42歳より広島県福山市でスナック「ジルバ」を

開店。独学で身近な素材を使ったカラクリ人形やひとり芝居用の舞台セット、木彫り人形など多彩でエロス溢れる作品を作り続けている。72歳のときには、第89回「欽ちゃん&香取慎吾の全日本仮装大賞」(2013年)にて『耕運機でおめでとう』で優勝を果たした。

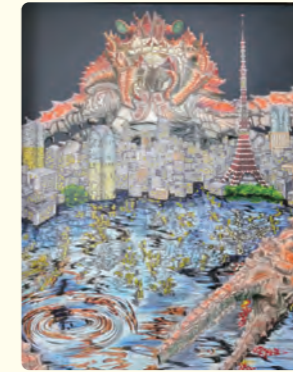


稲田泰樹



1949年生まれ
静岡県富士市
大手電機メーカーで空調機の製造技術を担当。タイ駐在中のスケッチが褒められたことを機に、退職後の67歳から独学で「クライシスシリーズ」の

制作を開始。長年の図面設計で培った緻密な技術と画家・山口晃氏の影響を融合させ、巨大生物が街を襲う俯瞰図が特徴。近年は構図を歪ませるなど、独自の表現を模索している。



超老芸術のつくり手たち

5年間で発掘・紹介した超老芸術のつくり手は50人超。その中でもとくに印象深いつくり手と、唯一無二の作品を紹介したい。

6年目を迎える超老芸術、その考察と展望



2025年に急逝した本田照男氏の事例では、地元の有志による遺作展と譲渡会が行われ、二千点近い作品がアーカイブされるとともに、一点千円以上のカンパで地域住民へ譲渡された。この試みは、公的な機関ではなく地域コミュニティの自発的な連帯によって成立した点に大きな価値がある。本田氏の、自らを救うための祈りにも似た作品が、相互救済の熱量となって地域に還流した事実は、表現が個人の生を超えて「社会の記憶」になることを証明した。

今後ArtSでは、こうした地域社会における表現の還流をさらに促進し、表現が個人の営みに留まらない社会的な基盤を整えていく。「超老芸術」は、一部の限られた人による特権的なものではない。表現とは、ある人にとっては心に空いた穴を埋め、自分を繋ぎ止めるための「生きるための切実な必要性」に基づくものであり、困難を乗り越えるための一つの「生存戦略」となり得るもの。こうした視点に基づき、まずは福祉分野との連携を深化させ、全ての高齢者が表現者になれる仕掛けを構築したいと考えている。(榎野展正)

尾上弘



1954年生まれ
静岡県浜松市
小中一貫校の校長を務め、2015年の定年退職後より、算数教育の論理的思考や幼少期の「蛇籠」の記憶を背景に、紙バンドを用いた独自の造形表現を行っている。対象の生態に合わせて「鱗崩し華編み」や「ねじり編み」など独自の複数の技法を使い分け、設計図を用いずに素材の強度と構造計算のみで自立させる工夫を施している。

現を行っている。対象の生態に合わせて「鱗崩し華編み」や「ねじり編み」など独自の複数の技法を使い分け、設計図を用いずに素材の強度と構造計算のみで自立させる工夫を施している。



本田照男



1946年生まれ、
2025年逝去
静岡県沼津市
沼津市内で、1969年に焼肉店を開業。60歳になったある日の夜に、ラジオからパッハの《マイ受難曲》が流れてきた際、自

動筆記により初めて絵を描く。以後、絵画制作を中心とした暮らしを送るようになる。家族との離別や実弟の逝去、店舗の閉店など数々の不幸に見舞われるが、絵を描き続けることで自身の心の安定を保っていた。



岩崎祐司



1946年生まれ
静岡県焼津市
自転車店を経営しながら35歳で木彫を始め、50歳の時に趣味のダジャレと木彫を融合させた「パロディ笑彫」を発明。以来25年以上、簡単な下描

きから700点以上の作品を生み出している。20年程前には自作を並べた「ギャラリーくすくす」を開設。自由な表現で来訪者を歓待し、現在も精力的に制作を続けている。



取り組み

2

アートによる 空き家活用ガイドラインの作成

3年かけて取り組んできた、モデルプログラムでの考察やワーキンググループでの議論をふまえ、空き家活用の担い手であるまちづくり団体に向けたガイドラインを制作した。空き家に対するアートの効果がどのようなプロセスで生まれるのかを整理し、直面しやすい課題とそれを乗り越えるためのヒント、「アートによる空き家活用」の進め方と県内各地の事例を紹介している。

発行に合わせ完成報告会を開催。各地のまちづくり団体や行政担当者、空き家活用に関心の高いアーティストやクリエイターが参加し、「アートによる空き家活用」の可能性について意見交換を行った。

アートによる空き家活用「fresh air」ガイドライン完成報告会

[日程] 2026年3月17日(火)13:30~15:30

[会場] 長泉町文化センター ベルフォーレ 交流ホール

[登壇者] 山田知弘(有限会社日の出企画)、
戸井田雄(Atelier&Hostelナギサウラ)

この事業は、静岡県が実施する「行政経営研究会」として静岡県と共催で実施しました。



ガイドラインの
ダウンロードは
こちらから



まちのすきまつア—

[日程] 2026年3月17日(火)10:00~12:00

[会場] 下土狩駅前コワーキングスペース

[ゲスト] サノユカシ(イラストレーター)

[企画運営] 有限会社日の出企画



(撮影:齋藤洋平)

fresh air 考察と展望

空き家活用においてアートに最も期待されるのは、その初動にアーティストが関わることである。

ワーキンググループ座長の山田知弘氏によれば、物件所有者には大きく分けて「貸したくても貸せないと悩む人」と「そもそも貸したくない人」がいる。その多くが後者であり、「貸したくない」という状況の背景には、経済合理性だけでは説明できない複雑な感情が潜んでいる。こうした感情は「放置空き家」の増加を生む一因ともなっている。

ガイドラインの企画制作を担った戸井田雄氏は、こうした動かない状況にアーティストが入り込み、そこに刻まれた思いや記憶に目を向け、その価値を掘り起こし再提示することで、所有者の感情を和らげる効果があると指摘する。

「アートによる空き家活用」は、言語化しにくい感情や関係性のプロセスに丁寧に向き合う実践なのである。アーティスト等の「つくりたい」という熱意が起点となり、その姿勢に触れることで、所有者や関係者の意識が少しずつ揺り動かされ、共創関係へと発展していく。こうしたプロセスの積み重ねは、活用しにくい空き家を単なる「放置空き家」から、地域コミュニティの関係性を耕す場という新たな役割へと転換していく可能性を示している。

今後は、この実践を各地の担い手と共有しながら、静岡県ならではの持続的な仕組みを更新し続けていくことが求められる。(立石沙織)

アートによる 空き家活用 パイロット事業 fresh air

いま、静岡県をはじめ全国各地で空き家の増加が課題となっている。アーツカウンシルしずおかでは、2023年度からパイロット事業「fresh air」を立ち上げ、空き家活用におけるアートの可能性を実践者や専門家とともに探ってきた。

「fresh air」には、閉ざされていた空き家に風を通し、新たな価値をひらくという意図が込められている。法制度や人間関係など複合的な要因で活用が難しい空き家に対し、アートは何ができるのか。この問いのもと、3年目となる本年度は、マッチングツアーの実施とガイドライン作成を通じて、担い手のニーズ把握と関係各所への理解促進に取り組んだ。

取り組み

1

アーティスト・クリエイター×空き家マッチングツアー

地域に眠る空き家と、活動拠点を求めるアーティスト・クリエイター(以下「アーティスト等」)をつなぐマッチングツアーを実施した。ツアーでは、アーティスト等を対象とした物件見学と、彼らと物件所有者や地域コーディネーター等との交流の機会を設けた。

活用の進まない空き家の価値をクリエイティブな視点で捉え直すとともに、拠点不足や賃料負担などの課題を抱えるアーティスト等のニーズ把握を目的とし、空き家活用の可能性を広げることを目指した。

御殿場編

[日程] 2026年1月26日(月)

[企画運営] 継創舎+富士山文化ハウス

御殿場で新たに立ち上がったまちづくり団体と周辺のクリエイターコミュニティが連携し、4軒の空き家を紹介。



島田・川根本町編

[日程] 2026年1月31日(土)

[企画運営] 空き家買取専科
(静岡ガスグループ株式会社Sweets Investment)

空き家の買取・再生販売を手掛ける不動産業者が案内役となり、駅近で利便性の高い島田・六合エリアと、大井川が織りなす豊かな自然が魅力の川根本町エリアで、4軒の物件を紹介。



熱海編

[日程] 2026年2月11日(水・祝)

[企画運営] NPO法人atamista

アートによるまちづくりを進めるNPOが中心となり、熱海市内のアートプロジェクトの担い手とともに空き家等を活用したプロジェクトの現場に加えて、2軒の空き家を紹介。



静岡・蒲原編

[日程] 2026年2月13日(金)

[企画運営] 合同会社つばめ制作社

自主的に空き家の調査や物件所有者の相談対応に取り組む団体がホストになり、様々な事情から不動産情報未掲載物件3軒や、蒲原地区の歴史的な町並みを案内。



(撮影:細道航)

はざま 連続講座『きかくの間』

アートプロジェクトの企画運営及び住民プロデューサー育成のための実践型講座。企画のノウハウ習得のみならず、参加者が自身の想いを言語化し、他者との対話を通じて企画を形にする「壁打ちの場」として開催した。

これまで文化芸術に関するあらゆる相談に応じてきた古谷晃一郎氏を講師に迎え、参加者が自身のやりたいことを提示し、互いに傾聴・相談し合うプロセスを全3回にわたり繰り返した。その結果、空き家活用や商店街連携など多岐にわたる企画案が深掘りされただけでなく、参加者同士が互いを肯定し、頼り合える仲間意識が醸成され、地域での実践を支える持続的なコミュニティ形成の起点となった。

[日 程] 第1回:6月28日(土)
第2回:9月23日(火・祝)
第3回:12月14日(日)

※上記に加え10～11月は参加者のうち希望者のみ対象とした「オンラインお悩み相談室」を設けた。

[会 場] グランシップ 904会議室
[講 師] 古谷晃一郎 (アートコーディネーター)
[ゲスト住民プロデューサー]
菊地悠子(NPO法人レザミ・デ・ザール理事長)
※講師とゲストは3回共通
[参加者数] 延べ25人



「きかくの間」スピノフ企画『ただいまきかく工事中』

対話を通してアートプロジェクトを育てていく連続講座「きかくの間」から生まれたスピノフ企画。「きかくの間」の受講者が「自分のやってみたいこと」を手がかりに試行錯誤を重ねてきたプロジェクトの“途中経過”を、小さな実践の場としてひらいた。

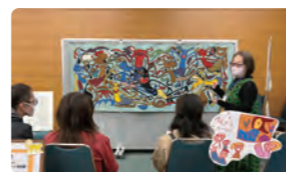
[日 程] 2026年3月1日(日) 13:00～16:00
[会 場] グランシップ 910会議室
[企画監修] 古谷晃一郎 (アートコーディネーター)
[参加者数] 111人



古谷氏との対話ブース「きかくの縁側」



感触書道



アウラの森芸術舎



かわいさちこ



乾久子とチームくじドロ



A.C.C.国際交流学園有志

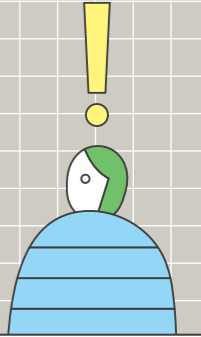


HAHAHANO.LABO

会場に点在する7つの体験ブースは常に和やかなにぎわいを見せていた

OTHER INITIATIVES

その他の取り組み



クリエイティブ人材派遣制度

クリエイティブ人材派遣制度は、視点を変えることで新たな展開を模索する企業・団体・自治体に対して、アーティストなどのクリエイティブ人材を派遣し、意見交換や試行的な取り組みを支援するものである。

外部からのクリエイティブな視点によって既存の価値を見直し、新たな気づきを促すことで、関係者の創造性や思考の幅を広げることを目的としている。また、ビジネスを含む多分野におけるアーティストなどの活動領域の拡大も狙いに含んでいる。今年度は、2つの団体に対して延べ3名のクリエイティブ人材を派遣した。

派遣先 | 株式会社スタジオ光栄

介護付き有料老人ホーム「ローズマリー」とそこに併設する診療所及び敷地を地域に開かれたものにし、多様な人が行き交い、人々の創造的活動を育む場所にするため、2名のクリエイティブ人材を派遣。田中みゆき氏は運営者との話し合いを中心として、施設を地域に開かれたものにするための客観的な助言や事例の紹介を行った。川口淳一氏は職員を対象として、ケアの視点をずらさず利用者や地域をつなぐためのレクチャーとワークショップを実施した。



[日 程] 5月8日(木)、6月3日(火)、7月30日(水)、2026年3月4日(水)
[派遣者] 5・6・7月/田中みゆき(キュレーター)、3月/川口淳一(作業療法士)

派遣先 | 大石内科循環器科クリニック

日常の中のあたりまえな物事をテーマに作品制作する美術家のタン・ルイ氏を派遣し、併設する介護事業所の利用者が参加するワークショップの実施と、運営者が実践する社会的処方活動も考慮し、家族や地域、他の事業へ波及することを見据えた展開案を示した。事業所ではレクリエーションの一環として作品制作はしているが、プログラムの中で完結することがほとんどだという中で、作品をきっかけにした家族とのコミュニケーション促進や、近隣地域へのアプローチなど、できることから試してみようといった意識の芽生えが見られた。




[日 程] 2026年3月17日(火)、24日(火)、27日(金)、30日(月)
[派遣者] Tan Ru Yi/タン・ルイ(美術家)




相談窓口

アートプロジェクトの主催者、アーティストや文化拠点の運営者など、文化芸術活動に携わる人々を対象に、企画・運営や、法律・経理の相談に対応する窓口を2021年度より開設している。この窓口には、文化に限らずビジネスや行政など多様な分野からも相談が寄せられ、実際の取り組みに反映される事例も生まれている。


相談員



プログラム・ディレクター、
コーディネーター(PD・PC)



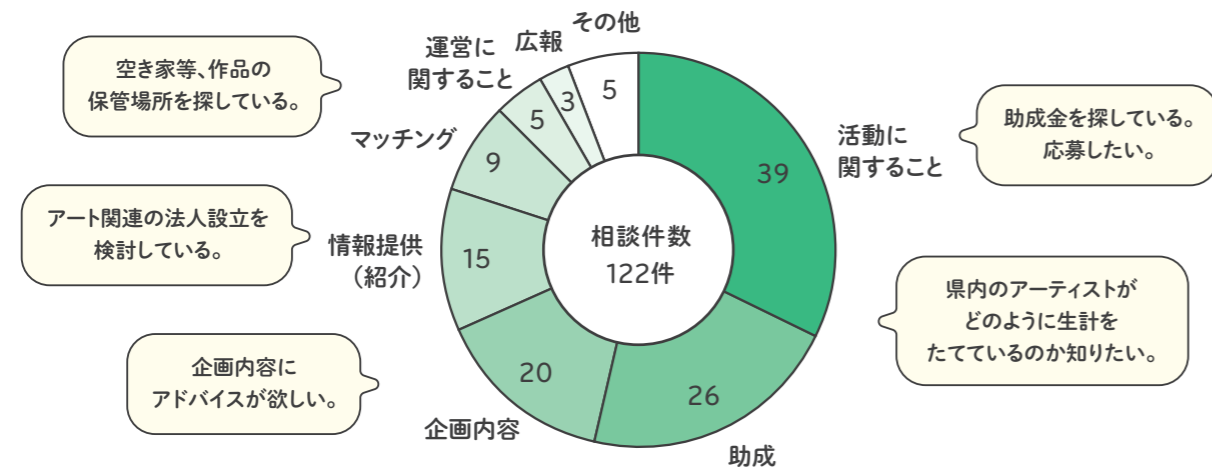
弁護士/植松真樹、
税理士/桜田武己、
中小企業診断士/河原崎紗綾香



特別相談員/
平野雅彦

プロフィール
静岡県広報業務アドバイザー、元国立大学
法人静岡大学特任教授、客員教授。
静岡市及び三島市文化振興審議会会長。

相談内訳



出張相談窓口

ArtSでは、事務所やオンラインでの相談対応に加え、静岡県内各地に出向いて相談の機会を設けるほか、ゆるく気軽に対話できる場としてオープントークを実施してきた。

今年度は、昨年度ArtSがアーティスト向けに実施した活動環境調査において寄せられた「県内のアーティスト同士がつながる場をつくってほしい」「地域と関わる活動の方法を知りたい」といった声を受け、2つのオープントークを企画した。



ArtS×浜松アーツ&クリエイション オープントーク
[日 程] 9月20日(土) 14:00~16:00
[会 場] はままちプラス(浜松市)
[ゲスト] 縣美勇士 氏(浜松アーツ&クリエイション)



【ArtSオープントーク】アーティストと考える、地域でのキャリアアップ
[日 程] 11月11日(火) 18:30~20:30
[会 場] 静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター(CCC)
[ゲスト] 仲田恭子 氏(演出家・演劇団体アートひかり代表)
持塚三樹 氏(現代美術家・画家)



アーツカウンシルしずおか出張相談窓口 in クレマチスの丘
[日 程] 11月1日(土) 11:00~15:00
[会 場] 旧ヴァンジ彫刻庭園美術館
[相談員] 鈴木一郎太(ArtSプログラム・ディレクター)

アートプロジェクト視察研修

アーツカウンシルしずおかでは県内各地でアートプロジェクトが展開されることを目標としているが、アートプロジェクトは比較的新しい概念であり、関心があったとしても、多くの人は事業のイメージを描きにくい。そのため、県の各地域局職員や、観光、移住、文化等に携わる市町職員、まちづくりや文化関連団体の構成員などを主な対象として、実際にその現場を見てもらう視察研修を2021年度から隔年で実施している。視察を通して参加者らがアートを活用した地域づくりのイメージを広げ、今後の活動に活かされることを期待し、今年度は県内2ヶ所の現場を視察した。

第3回視察先 | 用宗アートプロジェクト p18参照

アーティストの制作過程のプロセスを共有していくことで、まちの魅力や課題に可視化につながる「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」を取り上げ、2025年度「文化芸術による地域振興プログラム」助成事業の一つである用宗アートプロジェクトを視察した。

[日 程] 11月10日(月) 11:00~15:15
[会 場] café PORTEほか
[参加者数] 19人(市町職員、地域局職員、関係団体構成員、その他関係者)



滞在アーティストから「AIR」について率直な意見を伺う



滞在したアーティストが興味をもった場所を巡る

第4回視察先 | 三島満願芸術祭2026 p21参照

2025年度助成団体の事業である「三島満願芸術祭」を視察。関係人口の拡充、移住者と地元市民の関係構築などについて主催者に直接話を聞くことができ、視察後の交流会も盛況であった。

[日 程] 2026年2月13日(金) 11:30~16:30
[会 場] 三島商工会議所 4F会議室Bほか
[参加者数] 22人(市町職員、地域局職員、関係団体構成員、その他関係者)
この事業は、静岡県が実施する「行政経営研究会」として静岡県と共催で実施しました。



芸術祭代表からのレクチャー



参加者はチームに分かれ、三島の各地に点在する作品を見学した

第1回 UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川2022(2021年度)
第2回 Cliff Edge Project(2023年度)

F_P polytope/東部・伊豆地域文化ネットワーク形成準備事業

静岡県が進める東部・伊豆地域文化ネットワーク形成に向けた事業にコーディネーターとして携わった。県有施設を使ったモデル事業、アーティストの視点による地域リサーチを中心として、行政、民間企業、アーティスト、民間団体などの有機的な連動をつくりながら事業実施を行った。また、文化芸術を軸とした事業の特性を探るために、インスタレーション制作を題材としてレポートをまとめた。

poly_papier(ポリパピエ)

インスタレーション作品「pulp it!」制作

[制作期間] 10月23日(木)、24日(金)、27日(月)～30日(木)
 [会場] 旧ヴァンジ彫刻庭園美術館
 [アーティスト] 中島崇
 [マネジメント] NPO法人レザミ・デ・ザール
 [ボランティア] のべ31名
 [協力] 特種東海製紙(株)、長泉町、ながいずみ観光交流協会
 ※「ワークショップの丘」にて公開



「ワークショップの丘」
 (主催:長泉町、静岡県)
 [日時] 11月1日(土)10:00～16:00
 [会場] 旧ヴァンジ彫刻庭園美術館
 [参加者] 1300名
 [協力] 長泉町井上靖文学館、ベルナル・ビュフェ美術館、ながいずみ観光交流協会、特種東海製紙(株)、日本出版販売(株)、ヨット



poly_search(ポリサーチ)

[リサーチ実施者] 小鷹拓郎(アーティスト、映画監督)
 [公募期間] 6月23日(月)～7月22日(火) 応募数:59組
 [リサーチ期間] 10月6日(月)～12日(日)
 [マネジメント] 鈴木竜一郎
 [報告会] 「見えない祈りをたどって」
 日時:2026年1月16日(金)13:30～15:30
 会場:旧ヴァンジ彫刻庭園美術館
 参加者:20名

poly_play(ポリプレイ)

「音がつなげるクジラとクラゲ ～ハイザイアートで音づくり～」

[制作期間] 2026年3月28日(土)10:00～15:00
 [会場] 旧ヴァンジ彫刻庭園美術館
 [ディレクション] 水野哲雄(京都芸術大学名誉教授/幼保連携型認定こども園ふたば幼稚園教育アドバイザー)
 [マネジメント] Lab Qrio
 [協力] スズキキヨシ、根継商店、三島ジャンベ部、ファロ・夢、伊豆あかし行列、三島絵本をたのしむ会、誠恵高校・高校珈琲計画ほか
 ※「森の中の演奏会inクレマチスの丘」内のプログラムとして開催



「森の中の演奏会inクレマチスの丘」
 (主催:長泉町、静岡県)
 [日時] 2026年3月28日(土)10:00～15:00
 [会場] クレマチスの丘(旧ヴァンジ彫刻庭園美術館、ベルナル・ビュフェ美術館、長泉町井上靖文学館、駿河平自然公園)
 [参加者] 約1000名
 [出演] acolélé、Koji Koji Moheji、ハヤシハンドパン、鈴木拓矢、テーブルシアター(榎川寛子、三島恵太、森山冬子、吉見亮)
 [協力] ベルナル・ビュフェ美術館、長泉町井上靖文学館、ながいずみ観光交流協会



レポート

「社会的処方としてのアートプロジェクト:ウェルビーイング実現のための基礎資料-200mの紙を用いたインスタレーション作品制作プロセスから探る-」
 [取材、執筆] アーツカウンシルしずおか、神田未和(ウェルネス編集室・慧)

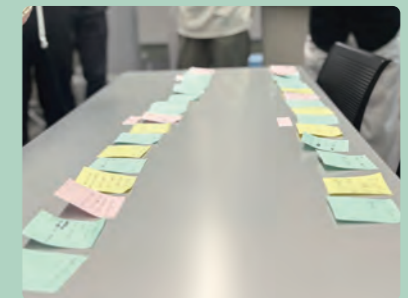
令和7年度 第1回 静岡県行政経営研究会
 文化芸術と多分野との連携による地域活性化「多文化共生×アート」

静岡県における多文化共生月間関連イベントとして、県文化政策課などとの三者が共催でシンポジウムを開催した。

多様な国籍や文化を持つ人々が、創造的な活動をきっかけに互いを理解し合い、地域で共に生きる社会を目指すため、多文化共生とアートが交わる県内の取り組みを紹介。関係者によるクロストークも交え、静岡県の多文化共生の現在地と、アートとの掛け合わせによるこれからの展開を探った。後半のグループワークでは、ArtSの専門スタッフがファシリテーターを担い、参加者それぞれが、アートのひろがりや多文化共生の新たな可能性を見出す機会とした。



[日程] 12月22日(月) 13:30～16:30
 [会場] B-nest静岡市産学交流センター6F プレゼンテーションルーム
 [参加者] 23人(県内及び市町行政職員、国際交流事業関係者、アーティスト、一般)
 [ゲスト]
 基調講演 高畑幸(静岡県立大学国際関係学部 教授)
 事例紹介 関鎮京(北海道教育大学岩見沢校芸術文化政策研究室 准教授)
 クロストーク 別所美和(一般財団法人静岡市国際交流協会)、
 幸田穂奈美(日本語サロンいろり)、布施安寿香(舞台俳優)



この事業は、静岡県が実施する「行政経営研究会」として、静岡県、関鎮京准教授(北海道教育大学)らの研究チーム※との共催で実施しました。
 ※科研費23K25285「多文化共生社会の構築に向けた文化政策のパラダイム転換に関する試論」(研究メンバー:関鎮京、山口祐香)の助成によるものである。

韓国での国際シンポジウム「持続可能な地域創生のための文化的協働」

国際交流基金(Japan Foundation)と韓国国際交流財団(Korea Foundation)の共催による国交正常化60周年記念シンポジウムに登壇した。

日韓両国の文化団体、アーツカウンシル実務者、アートマネジメントの専門家が登壇し、地域のアイデンティティを再発見し、人々のつながりを育み、持続可能な地域社会の構築に寄与する力を秘めた文化芸術やアート活動について、発表とディスカッションが行われた。発表のあった事例はもちろんのこと、シンポジウム前日に行われた春川市視察で紹介のあった取組も含め、両国の社会課題には多くの類似性が見られ、交流の意義を強く感じた。



[日程] 9月12日(金)14:00～17:40
 [会場] ONDREAM SOCIETY(ソウル特別市明洞、韓国)
 [ゲスト]
 黒澤信也(JF理事長)、キム・ギファン(KF理事長)
 基調講演 イ・ビョンミン(建国大学文化コンテンツ学科教授)
 関鎮京(北海道教育大学岩見沢校 芸術文化政策研究室 准教授)
 事例発表 イ・ガンジュン(西帰浦市文化都市センター長)
 野村政之(信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター)
 パク・ヨンソン(春川文化財団 都市文化センター長)
 鈴木一郎太(アーツカウンシルしずおか プログラム・ディレクター)
 ディスカッション・コーディネート キム・ギョウォン(韓国文化観光研究員 専任研究委員)



アニユアルレポート2025に添えて

「アートプロジェクトが地域社会を元気にする」

山間を縫って蛇行する大井川に沿って茶畑の広がる抜里地区は、ごくありふれた中山間地域だが、この何年か奇妙なものが次々と出現している。大きな沢蟹が茶畑に覆いかぶさったり、巨大な手のひらが茶畑から生えてきたり。茶の緑に映える蟹の赤い甲羅も、竹で作られた手も小山真徳さんによるアート作品であり、なかなかインパクトがある。

2018年に「無人駅の芸術祭」としてはじまり、2025年度に「大井川芸術創生譚」へと発展してきた、地域芸術祭での展示作品だ。

島田市川根町抜里地区は、大井川の中流域、決して広くはない沖積地に立地した集落である。静岡県ならではの特色は、こうした山間の狭い土地にも茶畑が広がっていることだ。

茶畑の中に点在する様々な展示作品を地元の方に案内していただいた。その中に、多数の絵が飾ってある作業場を兼ねた家があった。棒切れを腰に差した子供の泥んこ遊びだとか、スプーンで食事介護をしている「おふくろとの団欒」とか、昭和40年代の青年団とか、画題が芸術作品というよりも、平凡な日常生活を描いた大量の絵で、専門画家の仕事ではないが、レトロで不思議な魅力がある。土門拳の子どもの写真なども通じる同時代感にあふれていて、心を動かされた。

さんの絵の面白さを美術の専門家たちはなかなかわからうとしない。我々の目標は「すべての人々の創造性」にあるので、米澤國雄さんの発掘こそ、お宝中のお宝に見える。

専門と非専門の壁をいかにして取り壊すか、こんな楽しいアートを専門家の独占に委ねておきたくはないのだ。その意味で、今回の「大井川芸術創生譚」は重要な一歩を踏み出している。

さらに今回興味深かったのは、静岡県立美術館が再発掘した、地元のアーティストグループ「天地耕作」(あまつちこうさく)が参加したことである。つまり、美術館というアート振興の専門機関と地域アートプロジェクトが連携したのが画期的なのだ。このユツトの村上誠、村上渡の二兄弟が取り組まれたのは、神社の跡だという竹藪の中に、穴を掘り石で囲い、さらにその上を木で囲った船のような構築物を生み出している。そこにどういう意味があるのか、少なくとも人々が生きているのは、自然の中であって、自然と触れ合い、土地の精霊たちと交流せずには、一瞬たりとも生きてはいけない、ということを表しているのだろう、と想像した。

しばらく、西田秀己のつくったベンチに腰掛けて抜里の茶畑と周囲の山々を眺めながら考えてみよう。アートプロジェクトを進めると、どういいういことがあるのか。

第一に高齢者が元気になる。長くかかわってきたお茶や山のことならば、何でも知っている。それが近年はそうした技術、生活の知恵、得意技から遠ざけられつつあった。そこに、土を掘ったり、石を並べたり、木や竹を切って組み立てたりすることが始まる。ちよつと待て、そうした仕事こそ、自分たちの

一連の絵を描かれたのは、米澤國雄さん。若いころから絵が好きで折に触れて描いてこられたという。私とまったくの同年代の國雄さんが、開会式で「これからはもつと社会性のある絵にも挑戦したい」と話されていて感銘を受けた。

開会式には、百人を超えるほどの人が集まった。こうしたローカルな芸術祭にこの人数はちよつとした驚きだ。地元の方が関係者として百人も集まってもらえるのだ。ここまで地元の理解が進んだのだ。

地域のアートプロジェクトでも芸術祭でも、地元の方が理解し、当事者として加わっていただけかどうかに成否がかかっている。初めのころは、遠巻きにされたり、やがては、なんとなくそわそわと見に来られたり、それがどこかで堰が切れたように、自分たちも手伝おう、と当事者となっていただけるときがある。中には、國雄さんのように、だれに見せるともなく若いころから絵を描いてきた、というような人が現れる。

一方で、こうしたローカルなアートプロジェクトは、アートの専門家からは評価されにくい。古くから続いてきたアートプロジェクトとしての神楽や盆踊りのような郷土芸能まで加わってくると、民俗学的な関心を惹いても、近現代アートの文脈しか知らない専門家たちには理解できないのである。國雄

得意とするところだ。手伝ってやろう。どうだ、自分たちの方が腕は確かだろう、などなど。

こうして、高齢者の得意技が再発見され、高齢者が元気になると地域自治が機能して地域は住みやすくなる。さらには、自然や歴史、景観を含めた地域のお宝が再発見される。空き家や、耕作放棄地、産業遺産までもが、貴重な資源となつて、地域創造のお宝となる。

少子高齢が進み、人口が減り、経済が活性化しない。だから地域を元気にする活動が必要なのだが、様々な地域のお宝を生かして、地域の底力を回復するのが、アートプロジェクトの役割である。それが今、県下にくまなく広がりにつつあるのだ。



加藤種男
(静岡県文化財団副理事長、
アーツカウンシルしずおか
アーツカウンシル長)

アートプロジェクトのネットワーク化を掲げ、企業、行政、公益団体などを横断して文化政策を推進。芸術文化を専門家の独占から解放し、コミュニティの再生と新たな社会創造への源泉ととらえ、個人の表現にとどまらない、市民主体のプロジェクト型の協働表現を、「祝祭芸術」と名付けて展開している。企業メセナを長らく担当し、あわせて、アートNPOの全国ネットワークの形成、横浜をはじめとする文化芸術創造都市の推進、東日本大震災の芸術文化による復興支援などにかかわってきた。京都造形芸術大学客員教授、東京都歴史文化財団エグゼクティブアドバイザーなどを歴任。著書『芸術文化の投資効果』『祝祭芸術』など。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

数字で見る2025年度のアーツカウンシルしずおか

「文化芸術による地域振興プログラム」

助成事業採択件数

28件

実施地域

浜松市(3) 富士市(2)
掛川市(2) 沼津市
島田市(2) 三島市(2)
牧之原市 熱海市(2)
焼津市 伊豆の国市
藤枝市(2) 東伊豆町
函南町 小山町
静岡市(6)

助成事業応募件数

65件

マイクロ・アート・ワーケーション

MAW 旅人

36人

旅人居住地

東京都(10)、静岡県(6)、神奈川県(4)、
京都府(3)、茨城県(2)、埼玉県(2)、
愛知県(2)、秋田県、山形県、新潟県、
滋賀県、大阪府、山口県、沖縄県

MAW ホスト

12団体

MAW 旅人応募人数

170人

浜松市、磐田市、袋井市(2)、御前崎市、
吉田町、御殿場市、長泉町、沼津市(2)、
清水町、東伊豆町

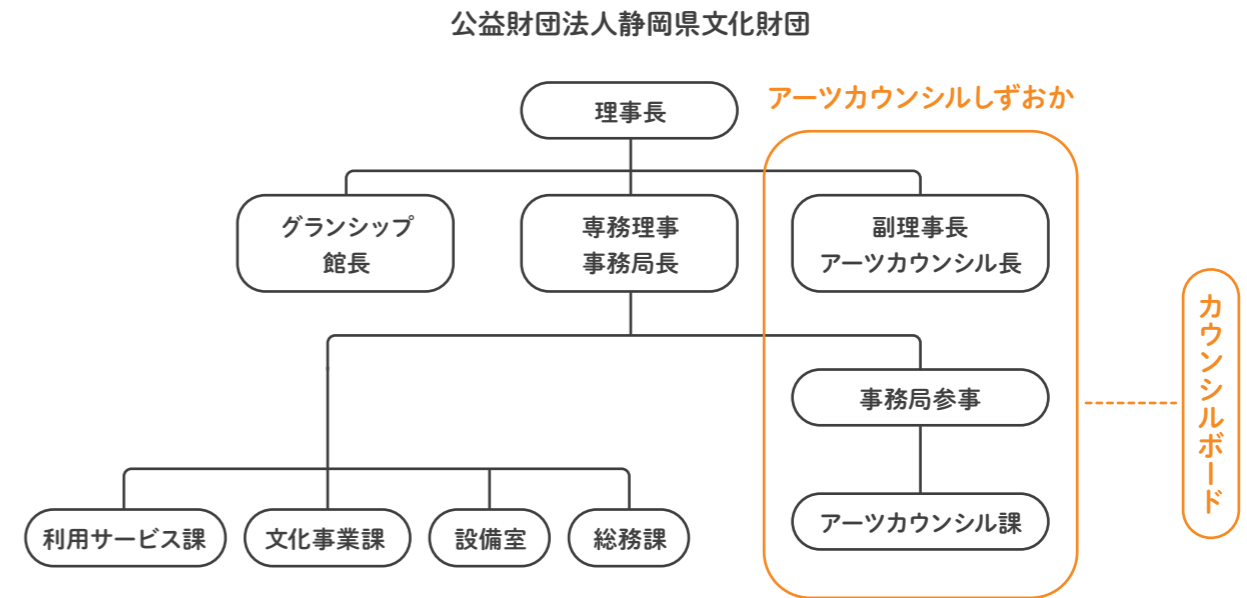
PD(プログラムディレクター)・PC(プログラムコーディネーター)出張件数

335件

ArtS関連の新聞記事掲載数

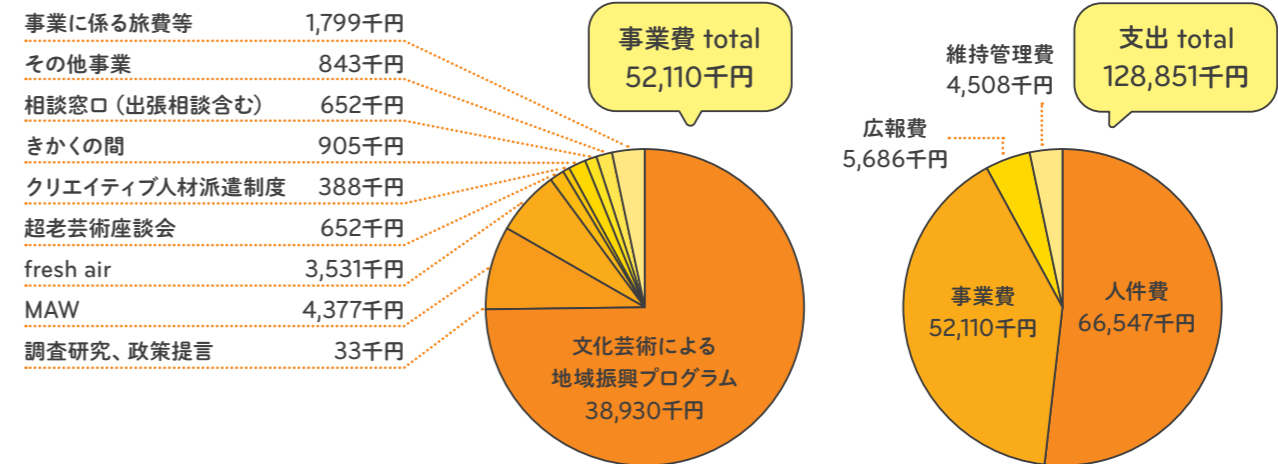
59件

体制図



アーツカウンシル長(副理事長兼務) …… 加藤種男
アーツカウンシル課長(事務局参事兼務) …… 川口智弘
専門スタッフ …… 榑野展正、北本麻理、鈴木一郎太、立石沙織、若菜ひとみ
スタッフ …… 齋藤緑、小松由貴子、舩元優、石川春佳

2025年度(令和7年度)事業費



※千円以下四捨五入

超老芸術と考える
「わたし」のウェルビーイング チラシ
デザイン:デザインさいとう(齋藤洋平)



きかの間スピノフ
ただいま”きか”工事中! チラシ
デザイン:skybeans(二宮奈緒子)



きかの間 チラシ
デザイン:ememデザイン室(新出睦)



アーツカウンシルしずおか
アニュアルレポート2024
デザイン:桑田亜由子



文化芸術による地域振興プログラム
2025年度助成事業紹介リーフレット
デザイン:summit(齋藤智仁)



Promotion

アーツカウンシルしずおかの取り組みを周知するべく、フライヤー、ポスターといった紙媒体、ウェブサイト、SNSなどを通じて多彩な広報展開を行った。

文化芸術による地域振興プログラム
2025年度助成事業 A0版ポスター
デザイン:桑田亜由子



アートによる空き家活用パイロット事業「fresh air」



『アートではじめる
空き家活用ガイドライン』
デザイン:混流温泉株式会社



まちのすきまつア ウェブバナー
デザイン:アーツカウンシルしずおか



アーティスト・クリエイター×
空き家マッチングツアー ウェブバナー
デザイン:勝又麻耶

出張相談窓口、ArtSオープントーク
ウェブバナー
デザイン:アーツカウンシルしずおか



「アーティストと考える、
地域でのキャリアアップ」ウェブバナー
デザイン:skybeans(二宮奈緒子)



文化芸術による地域振興プログラム
2026年度助成事業募集
チラシ、ウェブバナー
デザイン:futa design(藤本紗由美)



ウェブサイト

年間総アクセス数
107,270

年間総ユニークアクセス数
75,289

最もアクセスの多かった月
2月

アクセスが最も多かった日
5月9日

最もよく見られたページ
「2026年度文化芸術による地域振興プログラムの募集について」

その他 (20.6%)



facebook
フォロワー
年代上位

facebook
フォロワー
地域上位

静岡県
浜松市
神奈川県横浜市
三島市
沼津市
藤枝市

SNS

SNSフォロワー数
(2026/3/31時点)

facebook 1,428人
instagram 2,189人
X 671人

「いいね」が最も多かった
facebook投稿

東部伊豆地域文化ネットワーク形成準備事業 poly_search
報告会「見えない祈りをたどって」(2026/1/9)

「いいね」が最も多かった
instagram投稿

【#一般社団法人トリナス】先日、焼津駅前の「みんなの公民館まる」で開催された文化祭「まるフェス」を視察してきました!
(2025/9/12)

リーチが最も多かった
facebook投稿

※上記データの集計期間は2025年4月1日～2026年3月31日です。

マイクロ・アート・ワークショップ(MAW)



MAW2025ポスター
デザイン:桑田亜由子



MAW2025ポストカード
デザイン:s-table design(柴田剛志)



MAW2025ポストカード
デザイン:s-table design(柴田剛志)

2025年度「文化芸術による地域振興プログラム」 チラシ等制作物



2025年度アーツカウンシルしずおか
 アニュアルレポート

2026年5月発行

アーツカウンシルしずおか
 〒422-8019
 静岡県静岡市駿河区
 東静岡二丁目3番1号
 グランシップ1F
 TEL: 054-204-0059
 FAX: 054-288-8180
 mail: info@artscouncil-shizuoka.jp
 WEB: https://artscouncil-shizuoka.jp

執筆・編集 アーツカウンシルしずおか
 撮影 鈴木竜一郎(表紙、p1、2、4、奥付)
 印刷・製本 グラフィック

ト
ウ
ー
ビ
ー
コ
ン
テ
ィ
ニ
ユ
ー

